

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2026年 7-8月

「神のみかたちを回復する」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

はじめに

「教会は立ち上がって悔い改めねばならない」 3

朝のマナ

「神のみかたちを回復する」 4  
Restoring the Image of God

力を得るための食事

「キャロブマフィン」 68  
レシピ

お話コーナー

「悲しく悪い日々 (I)」 70  
聖書物語

### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1  
電話：0494-22-0465

### 【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21  
電話：0980-55-8136

発行日 2026年6月14日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Joe Maniscalco on page 4

アクセス [www.4angels.jp](http://www.4angels.jp)

メール [sdarm.shomaru@gmail.com](mailto:sdarm.shomaru@gmail.com)

Printed in Japan

## 教会は立ち上がって悔い改めねばならない

教会は立ち上がって、神の前にその墮落を悔い改めねばなりません。見張りは目を覚まし、ラッパに正しい音を与えてください。わたしたちが宣べ伝えるべきは、断固たる警告です。神は僕たちに、「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ」（イザヤ 58:1）と命じておられます。人々の注目を勝ち得ねばなりません。これがなされないと、すべての努力は無効になります。天からみ使いが降りてきて彼らに語っても、その言葉は冷たい死人の耳に語っているように、何の役にも立たないでしょう。

教会は活動を始めねばなりません。教会が道を備えなければ、神のみ霊は決して下りません。心を熱心に探る必要があります。心をつ一つにしてたゆみなく祈り、信仰をもって神の約束を求めるべきです。…神の力強いみ手のもとに、謙遜になるべきです。真に求める者に神はあらわれて、慰め、祝福して下さいます。

わたしたちの前には働きがあります。わたしたちはそれをしていのでしょうか。わたしたちは速やかに働き、常に前進しなければなりません。主の大いなる日の備えをしなければならないのです。一刻も失うことはできませんし、利己的な目的のために時を費やすことはできません。わたしたちはこの世界に警告を与えねばならないのです。個々人としてわたしたちは、ほかの人々に光を与えるために何をしているのでしょうか。神はすべての人にそれぞれの働きをお与えになりました。すべての人になすべき分があり、これをおろそかにすればわたしたちの魂も危険に陥ります。

兄弟方、あなた方は聖霊を悲しませ、去らせるでしょうか。救い主に臨在していただく準備ができていないために、救い主を閉め出すのでしょうか。自分の安逸をむさぼり、イエスがあなたのために負われた重荷を拒み、真理の知識がないために滅びる魂をそのままにしておくのでしょうか。眠りから覚めましょう。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのよう、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」（ペテロ第一 5:8）（レクイエム・メッセージ 164,165）

# 神のみかたちを回復する

*Restoring the Image of God*



7-8月

7月 喜ばしい休息の日

8月 思いと金銭の問題

## 創造主の正式な記念日

「こうして天と地と、その万象とが完成した。神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。」(創世記 2:1,2)

安息日は創造のみ業を記念するために全人類に与えられた。大いなるエホバは、地の基をすえられたときに、全世界を美しく装い、地と海のすばらしいすべてのものを創造されたときに、安息日を制定しそれを聖とされた。明けの星は相共に歌い、神の子たちがみな喜び呼ばわったときに、安息日は神の記念の日として取り分けられた。神はその驚くべきすべてのみわざを終わって休まれた日を聖別し、祝福された。そして、この神に聖別されたこの安息日は、永続する契約として守られるべきであった。この日は各時代にわたって地上歴史の終わりまで、記念として残るのであった。(レビュー・アンド・ヘルド 1898年8月30日)

安息日は創造の記念日としてエデンで制定された。それは真の神を天と地の造り主として人に直接指し示している。このようにそれは偶像礼拝、無神論、不信心に対する力強い防壁として立っている。安息日が全体的に守られていたなら、これらの悪のどれ一つとしてわたしたちの世界に足場はなかったはずである。不信心者も偶像礼拝者も存在し得なかった。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年9月14日)

安息日は神とその民との間の印である。この日は休息し、聖なる事柄を熟考するための日として創造主から人に与えられた聖なる日である。神はこの日が各時代を通じて永続する契約として守られるようにと計画された。この日は特別の宝、すなわち注意深く大切にすべき委託物とみなすべきであった。

わたしたちが安息日を守るとき、これは人が愛されたお方のうちに受け入れられるという天が与えた印であることを覚えていよう。すなわち、もし彼が従順であるなら神の都に入り、命の木の実にあずかることができるというしるしである。

わたしたちが七日目に仕事を差し控えるとき、自分が神の側にいることを世に証しており、このお方の戒めに完全に服従して生きようと努めていることを証しているのである。このようにしてわたしたちは六日のうちに世界を造り、七日目に休まれた神を、わたしたちの統治者として認めるのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1902年10月28日)

7月2日

## 取り分けられた安息日

「神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終って休まれたからである。」(創世記 2:3)

安息日は創造のときに聖別された。それは人のために定められ、その起源は……「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった」(創世記 1:31)、そしてご自分の完成された働きの喜びをもって休まれたことに由来する。このお方は安息日に休まれたので、「神は七日目を祝福して聖とされた」、すなわちその日を聖なる用途のために取り分けられた。このお方はそれを休息の日としてアダムにお与えになった。この日は創造のみわざの記念であり、このようにして神のみ力とその愛の印である。聖書は「主はそのくすしきみわざを記念させられた。」「被造物」は「天地創造このかた神の見えない性質」すなわち「神の永遠の力と神性」を宣言している(創世記 2:3; 詩篇 111:4; ローマ 1:20)

万物は神の御子によって創造された。「初めに言があった。言は神と共にあった。……すべてのものは、彼によってできた。できたもののうち、一つとして彼によらないものはなかった」(ヨハネ 1:1-3 欽定訳)。そして安息日が創造のみわざの記念である以上、それはキリストの愛と力のしるしである。

安息日はわたしたちの思いを自然界に向けさせ、創造主との交わりに入れる。小鳥のさえずり、木々のそよぎ、海の快い響きの中に、わたしたちはまだ日の涼しいころエデンでアダムと語られたお方の声を聞くことができる。そしてわたしたちが自然の中にこのお方の力を見るとき、慰めを見出す。なぜなら万物を創造されたみ言葉は、魂に命を語るみ言葉だからである。「『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった」お方は、イエス「キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである」(コリント第二 4:6)。……

安息日はシナイで与えられた律法の中で具体化されていたが、そのとき初めて休息の日として知られるようになったのではなかった。イスラエルの民はシナイに来る前にそのことの知識を持っていた。(ビュー・アズ・ワルド 1910年8月18日)

安息日を守ることは、「天と地と海と水の源とを造られた」真の神に対する忠誠のしるしである。(各時代の争闘下巻 157)

## 安息日のために準備する

「主の語られたのはこうである、『あすは主の聖安息日で休みである。きょう、焼こうとするものを焼き、煮ようとするものを煮なさい。残ったものはみな朝までたくわえて保存しなさい』と。」(出エジプト記 16:23)

マナの調理に関してシナイでイスラエル人に課せられた制限を軽々しく話してはならない。主はご自分の安息日の周りに防壁をめぐらされたが、それは安息日がわずかとも言えども不注意にあるいは不敬に見なされることがないためである。主が「主の語られたのはこうである、『あすは主の聖安息日で休みである。きょう、焼こうとするものを焼き、煮ようとするものを煮なさい。残ったものはみな朝までたくわえて保存しなさい』と」仰せになったとき(出エジプト 16:23)、このお方は、金曜日は準備の日であり、わたしたちはその日に料理をすべてすべきであることを意味されたのである。安息日は一口の食物であつても作り、調理をする日であつてはならない。もし安息日に豆がどうしても必要であれば、金曜日に調理し、オーブンの中で温めておきなさい。それを冷たいままで食べる必要はない。しかしそれがあたかも非常に軽いことであるかのように言い、安息日に関する神の特別なご要求とみなさないことがあつてはならない。神のご要求の一つでもあえて無視するよう試みることはだれにも任されていない。……

わたしたちが備えの日に準備する食物は、特に寒い季節には、温めて食卓にのせることができる。旅行中は何日も冷たい昼食を食べるが、だれも不便や害を感じない。わたしたちは週の他の日は毎日味の良い健康的な食べ物を望むが、安息日にはあなたの料理人が家族のために料理をする代わりに休息の日を持つことができるようにしよう。あらゆる準備は金曜日に行いなさい。しかし、安息日を何か特別に食欲を満たすものを食べる日と考えてはならない。あなたの子供たちと家族の一人ひとりが簡素で単純な食物を楽しみ、安息日の主が受ける態度で、いるすべての者に与えようと待っておられる祝福を受ける用意をするよう教育しなさい。このお方は、神の創造の偉大な記念日、安息日を聖なる日として守ることにより神への愛を示す一人ひとりのためにこれを持っておられる。静かに話し、静かに歩きなさい。あなたの唇から軽々しい、くだらない言葉は一言も出さないようにしなさい。この日は神の日である。(ビュ・アソド・ハラルド 1897年6月8日)

7月4日

## マナの奇跡

『六日の間は〔マナ〕を集めなければならない。七日目は安息日であるから、その日には無いであろう』。ところが民のうちには、七日目に出て集めようとした者があったが、獲られなかった。そこで主はモーセに言われた、『あなたがたは、いつまでわたしの戒めと、律法とを守ることを拒むのか。見よ、主はあなたがたに安息日を与えられた。ゆえに六日目には、ふつか分のパンをあなたがたに賜わるのである。おのおのその所にとどまり、七日目にはその所から出てはならない』。こうして民は七日目に休んだ。」(出エジプト 16:26-30)

安息日の準備は一週間を通じてなされるべきである一方、金曜日は特別な備えの日となるべきである。……イスラエルの子らのために天が送られたパンを準備することでなすべきことが何かあった。主は、この働きは金曜日、すなわち備えの日にしなければならないと彼らに仰せになった。これは彼らにとってテストであった。神は彼らが安息日を聖なるものとして守るかどうかをご覧になりたかったのである。

エホバの唇からのこの指示はわたしたちの教訓のためである。聖書は完全な導き手であり、もし理解したいと心に望んで祈りながらそのページを研究するなら、だれもこの質問で過ちを犯す必要はない。

多くの者は、自分たちが安息日に礼拝のための集会でどのように見えるべきであるかについて教えられる必要がある。彼らは平日に着ていた普通の衣服をまとうて、神のご臨在の中に来るべきではない。すべての者は神の家での奉仕に出席するための特別な安息日のスーツを持つべきである。わたしたちは世的な流行に従うべきではない一方で、自分たちの外観に無頓着であってはならない。装飾はなくてもごぞつぱりとし、手入れをした衣服であるべきである。神の子らは内も外も純潔でなければならない。

安息日の準備は金曜日に完成させなさい。すべての衣服は準備ができており、料理はすべてなし終わっていることを確認しなさい。ブーツを磨き、入浴しよう。これをするのは可能である。もしあなたがこうすることを規則とするなら、なすことができる。安息日は衣服の繕い、食べ物の調理、快楽を求めることあるいはそのほかのような世的な仕事にも時間を当ててはならない。(教会への証 6巻 354,355)

## 常に覚えるべき日

「安息日を覚えて、これを聖とせよ」(出エジプト記 20:8)

「六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」(出エジプト 20:8-11)

七日目の日、安息日の遵守に関する命令はまだ地の住民すべてに拘束力がある。神はこの日をご自分と忠誠をつくすご自分の民の間の印として取りおかれた。神のご命令は決して変わることなく、永遠と同じく不朽である。主は、ご自分の律法をその性質において不変なものとして宣布することを命じられた使者を持っておられる。この律法に従う者は生ける神の印を帯びる。週の最初の日には神聖さはない。第七日目は創造のみ業の記念として取りおかれた。すべての人は光と導きを求めて天地の創造主なる神を仰ぎ、このお方だけに榮譽を帰すべきである。(ゴスペル・ヘラルド 1905年4月1日)

第四条は、あたかも神が「それを忘れてはならない」と仰せになったかのように、「覚えなさい」と始まっている唯一の命令である。このお方は創造の記念日として安息日を人にお与えになった。人はその命令に従うべきであり、彼がこの記念日を守るとき、思いは天と地を創造された生ける神に向けられる。もし人が安息日を聖なる日として守ることを常に覚えていたなら、わたしたちの世界に無心論者や偶像礼拝者はいなかった。しかしサタンは思いから神を締め出すために努力し、これを成し遂げるために自分の計画を実行してきた。そして人の記憶から神を消し去ることによって、できることなら自分を神の立場におき、自分自身を神にまさって高めようとしている。……

わたしたちは今第七日目すなわち神がわたしたちに守るようにと仰せになったまさにその日を守っている。(ビュー・アンド・ワールド 1888年12月18日)

7月6日

## どれほど忙しかろうと関係なく……

「あなたは六日のあいだ働き、七日目には休まなければならない。耕し時にも、刈入れ時にも休まなければならない。」(出エジプト 34:21)

人がその多くの気苦勞や困惑の中で律法の要求をすべて満たすことに言い訳をするよう誘惑されたり、世的な事業の圧迫により律法の聖なる重要性を忘れてたりすることをご存じの上で「覚えよ」と、神は仰せになった。それは、週の最初の日でもなければ、他のどの一般的な日でもなく、神が祝福し聖なることに用いるために取りおかれた第七日目である。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1897年7月29日)

イスラエルの子らは荒野で幕屋を建てており、急ぐ必要があったが、彼らに「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない」とのみ言葉が与えられた(出エジプト 31:13)。幕屋の建設は迅速に進めなければならなかったが、安息日は働く日として用いてはならなかった。主の家における働きでさえ、主の休息の日の聖なる行事に道を譲らなければならない。(ウォッチマン 1917年1月8日)

第七日目は神の選ばれた日である。このお方はこのことを祭司や支配者につくり直すようにと任せてはおられない。それは人間の判断に任せるには、あまりにその重要性が大きすぎる。神は、人々が自分自身の都合を考慮し、自分の意向にもっとも合う日、神の権威を帯びていない日を選ぼうとすることを知っておられたので、第七日目が主の安息日であることをはっきりと言明されたのである。

神の世界にいる者はだれでも神の統治の律法のもとに居る。神は安息日を十戒の真ん中に置き、それを従順の基準とされた。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1898年3月31日)

安息日が……覚えられるとき、世俗のことは靈的なことを侵害することは許されない。六日間の働く日に属する義務を、安息日のために残してはならない。主が休まれ気分を爽やかにされた日に、わたしたちがこのお方の奉仕に携わるのにあまりに疲れるほど、週日にわたしたちのエネルギーを使い果たしてはならない。(教会への証 6巻 354)

日没の前に宗教に関係のない働きはみな中断し、世俗の読み物はすべて眼にふれない場所に置く。両親方、子供たちにあなたの働きとその目的を説明し、彼らにも戒めに従って安息日を守るためにあなたと一緒に準備させなさい。(同上 355,356)

## 神の聖なる時を聖別する

「主はこう言われる、命が惜しいならば気をつけるがよい。安息日に荷をたずさえ、またはそれを持ってエルサレムの門にはいってはならない。また安息日にあなたがたの家から荷を運び出してはならない。なんのわざをもしてはならない。わたしがあなたがたの先祖に命じたように安息日を聖別して守りなさい。」(エレミヤ 17:21,22)

安息日の要求が提示されるとき、わたしたちが七日間の一日を守ってさえいれば、どの日を安息日として守ろうと何の違いがあるかと尋ねる者が多くいる。わたしたちは答える、わたしたちが神のみ言葉に従うのか、あるいは無視するのか、これ以上の違いはないと。神は安息日を創造の偉大なみ業の記念日としてわたしたちにお与えになった。……

サタンは神とこのお方の創造の力の知識を人々の熟慮と記憶から消し去ろうと決心している。しかし第四条の戒めが守られている間は彼の目的を達することはできない。なぜなら安息日は人々の思いを創造主に向けるからである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1893年6月12日)

神のあわれみは病人と苦しむ者が世話を受けるべきであると命じている。彼らの苦痛をとりのぞくために要する労働は、必要な働きであり安息日を汚すのではない。しかしすべての不必要な働きは避けるべきである。多くの者は備えの日に果たしておくべきさいな事柄を安息日の始まりまで不注意に放っておく。これはすべきではない。聖なる時間の開始まで怠っていたどの働きも安息日が過ぎるまで果たさないで残しておくべきである。

言葉と思いを守らねばならない。安息日に仕事上の事柄を話し合い、計画をする者は実際に業務の処理に携わっているものと、神に見なされる。安息日を聖なるものとして守るために、わたしたちは自分の思いが世的な性質の事柄にこだわることさえ許すべきではない。(ヒストリカル・スケッチ 217,218)

7月8日

## わたしの思いと言葉を見張る

「あなたがた、貧しい者を踏みつけ、また国の乏しい者を滅ぼす者よ、これを聞け。あなたがたは言う、『新月はいつ過ぎ去るだろう、そうしたら、われわれは穀物を売ろう。安息日はいつ過ぎ去るだろう、そうしたら、われわれは麦を売り出そう。』」(アモス 8:4,5)

あなたは安息日を守ることに、注意すべきほどに注意しているであろうか。あなたにはその日に自分の働きや娯楽をしないでおくこと以上になすべきことがある。もしあなたがその日に、安息日が過ぎたら何をしようかと計画を立てたり、あるいは自分の仕事や娯楽や衣服のことを話すなら、あなたは安息日を汚しているのである。……

あなたが神のうちにあるあなたの希望、イエスとこのお方のまもなく来られること、新地の麗しさを話しているとき、あなたは自分自身の言葉を話しているのではない。あなたはこれらのことを安息日に自由に話すことができる。六日の間あなたは仕事上のことを話すことができ、必要な計画を立てることができる。しかし安息日は聖なる時であり、その日にはすべての世的な考えは思いから捨てなければならない。そのとき神の祝福があなたにとどまり、このお方の御霊のかんばしい慰めを持つようになり、あなたもまた、恵みの御座に近づく時に確信をもつようになる。(ユース・インストラクター 1853年2月1日)

神の聖なる休日を守っていると公言するわたしたちの間に安息日の改革が必要である。ある人々は安息日に自分たちの仕事上の事柄を相談し、計画する。そして神はこれを彼らが実際の業務処理に携わったのと同じ光のうちにご覧になる。また第七日目安息日であるという聖書の証拠によく通じている他の者が、神の聖なる日を重んじない人々と提携する。安息日遵守者は、自分の金銭を払って雇っている人々が安息日に働くことを許すことはできない。もし利益のために、自分が利益に関与している事業が、不信心の共同経営者によって安息日にも行われることを許すなら、彼はその不信心者と同じく有罪である。そして彼が関係を解消することによってどれほど多くの損失をこうむろうとも、そうすることが彼の義務である。人々は自分たちが神に従う余裕はないと考えるかもしれないが、彼らは神に不服従である余裕はないのである。安息日の遵守に不注意な者は多くの損失に苦しむ。(ビュー・アンド・ヘルド 1884年3月18日)

## クリスチャンの安息日

「人の子は安息日の主である」（マタイ 12:8）

多くの者が、神の律法は独占的にユダヤ人に与えられた、また週の第七日目はユダヤ人の安息日である一方で週の初めの日はクリスチャンの安息日である、と強く主張することにより、第四条の戒めの要求を逃れようと努める。この区別は聖書の中で認められていない。旧約聖書と新約聖書、神の律法とキリストの福音、ユダヤ制度の要求とクリスチャン制度の要求の間に存在するとしばしば主張されるような対照性はない。昔の制度で救われたどの魂も、今日わたしたちがキリストによって救われたのと全く同じようにキリストによって救われたのである。父祖と預言者たちはクリスチャンであった。福音の約束は初めの夫婦が罪を犯したことにより、自分自身を神から引き離したときに、エデンで彼らに与えられた。福音はアブラハムに説かれた。ヘブル人はみなキリストである霊の岩から飲んだ。諸世界が造られたのはキリストによってであった。律法はキリストによってシナイ山で宣言された。それゆえに満ちみちた意味においてキリストはご自身が宣言なさるように「安息日の主」であられる。このお方はその日を、み使いたちと人々の礼拝を受けるための日としてご自身のために聖とされた。（*サインズ・オブ・ザ・タイムズ* 1882年9月14日）

神はご自分の律法をお与えになった。そして、十誡の第四条にこのお方の安息日、すなわち、わたしたちが天地創造の記念日として守るために世的な事業から離れるまさにその日がある。そして天地が存在するかぎり、この律法は地上に生きている者に対して拘束力がある。モーセが神の規則と教訓に関してイスラエルの子らに与えた指示は、モーセではなく、天におられる神に由来している。キリストは昼は雲の柱の中におられ、夜は火の柱の中におられたことが教えられている。人々は暗闇に包まれている。そして、彼らが新約聖書におけるキリストを旧約聖書におけるキリストに敵対して武装配置させるとき、確かに知恵は彼らから去っているのである。古代のイスラエル人は、わたしたちが今日キリストによって救われるのとまさしく同じようにキリストによって救われたのであった。（*レビュー・オブ・ハラルド* 1890年7月15日）

7月10日

## 憐れみをもつことは律法にかなっている

「すると、そのとき、片手のなえた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、『安息日に人をいやしても、さしつかえないか』と尋ねた。イエスは彼らに言われた、『あなたがたのうち、一匹の羊を持っている人があるとして、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないだろうか。人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである』。そしてイエスはその人に、『手を伸ばしなさい』と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。」(マタイ 12:10-13)

イエスがわたしたちの世界に来られたとき、世から霊的な光が輝きでなければならなかった。ああ、天よ、聞け!ああ、地よ、驚け!約束された教師はまさしく神のひとり子であった。神はキリストのうちに表され、このお方は真理の宝を明瞭にされた。ご自身を安息日の主と宣言しつつ、第四条の安息日の上に山積みなされていたがらくたを取り払われた。世界と人を造られたお方は安息日もまた造り、清く守るようにとそれを人にお与えになった。(スパルディング・メイガン・コレクション 59)

イエスは安息日に関するユダヤ人の誤った教えを正し、その日における憐れみの行為もまた律法にかなっていることを弟子たちに印象づけようと望まれた。片手のなえた人を癒すことにおいてこのお方はユダヤ人の習慣を破り、神がそれを世にお与えになったとおりに際立たせられた。この行為によって主は安息日を重荷としていた無意味な制限を一掃し、安息日を高められた。イエスの憐れみの行為はその日に誉れを帰したが、その一方このお方のことをつぶやいた人々は自分たちの役に立たない多くの作法と儀式によって自らが安息日を汚していた。

今日神の御子が安息日を破り、同じことをするご自分の弟子を正当化されたと教える牧師がいる。彼らは、キリストが安息日を廃されたと考えるため、表向きは別の目的であるものの、あらさがしのユダヤ人と同じ立場を取っている。(預言の霊 2 巻 199)

神は、人間に、働くために六日間をお与えになり、彼ら自身の働きがその六日の働き日になされるように要求される。病人や苦しんでいる者はいつでも世話しなければならないので、必要とあわれみの行為は安息日にもゆるされるが、不必要な働きは厳格にこれを避けなければならない。(人類のあけぼの上巻 358)

## イエスが教えられたように教える

「安息日に……、イエスは会堂にはいつて教えられた。」マルコ (1:21)

神はキリストのうちに表された。このお方はご自身を安息日の主であると宣言しつつ、真理の宝を明らかにし、第四条の安息日の上に積み重なっていたがらくたを取り除かれた。世界と人を造られたお方は安息日もまた造り、清く守るようとそれを人にお与えになった。(クリスチャン教育者 1897年 8月1日)

真理を聞いたことのない幾千の人々が命のパンに飢えている。彼らは天からの光を欲している。彼らに真理が愛のうちに提示されるなら、聖霊がそれを受け入れるようにと導きつつ、彼らの心を動かすであらうに。……(ビュー・アノド・ハラド 1904年 11月3日)

賢い教師すなわち御言の真理を教えるのにふさわしい男女がわたしたちの町々に必要である。これらの人々に、真理をことごとくその聖なる尊厳のうちに、また聖化された単純さをもって提示させなさい。(伝道 71)

わたしたちは今、戸外で集会を行っている。……厚板が座席のために半円に並べられ、ある人々は草の上に敷いた敷物に座り、他の人々は囲いのすぐ外にある馬車の中にいる。戸外での集会をする以外にこの人々に接する他の方法はない。何人かは深い関心を示しているように見える。二、三人が決心をしつつあり、実りつつある畑はみな収穫の備えができています。わたしたちが彼らのいるところで人々に会うために自分たちの内輪から外に出て行くために断固とした努力をしないかぎり、多くの魂を救い損なう。

茂みの中にある小さな荒れずりの教会に入っていく機会はほんのわずかもない。わたしたちはこの方法で人々に語る機会をみな拒まれてきた。しかし主の巨大な宮、すなわち戸外では一諸天をわたしたちの丸天井とし、地面をわたしたちの床とすると一わたしたちは別のやり方では聞こうとしない聴衆を得ることができ。わたしたちはこれらの場所で真理の旗を掲げることを見事に考える。……戸外の人里はなれた場所で成されるべき大なる働きがあることをわたしたちは見る。(伝道 426,427)

説教のできる牧師だけでなく真理の教え方を理解している男女も同様に必要である。……送り出されなくても……出ていく重荷を感じる男女が必要である。(ゴスペル・ハラド 1899年 8月1日)

7月12日

## 神の驚くべきみわざを熟考する

「安息日になったので、〔イエスは〕会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人は、驚いて言った、『この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか。』」（マルコ 6:2）

安息日を清く守るために自分を壁の中に閉じ込め、自然の美しい光景や自然の活気づける自由な空気を締め出す必要はない。わたしたちは、自分の思いを主が聖別されたこのお方の安息日から引き離すような重荷や仕事上のやり取りを決して許してはならない。世的な性格の事柄に自分の思いがとどまるのを許すべきではない。しかし安息日のほとんどすべての時間を壁の内側において、長い説教と形式ばった祈りを聞くことに限定されることによって、気分がさわやかになることも活気づけられることも高められることもない。主の安息日をこのように祝うなら、それは誤用である。それが制定された目的を果たしていない。安息日は、神のいつくしみ深さと栄光を熟考するために、人の思いを世俗の勞から呼びだすことによって、人の祝福となるよう、人のためにつくられた。神の民はこのお方のことを語るために、そのみ言葉の中に含まれている真理に関して思いや考えを交換し、ふさわしい祈りに一定の時間を捧げるために集まる必要がある。しかしこれらの時間は安息日であっても飽き飽きするほど長く、関心を持たせないものであってはならない。

一日のある一定の時間、すべての者は戸外にいる機会を持つべきである。子供たちは、遊ぶためではなく、両親と一緒に一定の時間を戸外で過ごす以上に、どのようにして神の正しい知識をもっと受け、その思いがもっとよく印象づけられることができるであろうか。彼らの若い思いが自然の美しい景色の中で神と交わり、彼らの注意がこのお方の創造のみ業の中にある人へのこのお方の愛のしるしに向けられて、彼らが引きつけられ興味がわくようにしよう。彼らは神のご品性を何事にも厳しく厳格であると結び付けて考える危険はない。かえって、このお方が人の幸福のために創造された美しいものを彼らが見るとき、このお方が優しく愛に満ちた御父と考えるよう導かれる。（教会への証 2 巻 583,584）

## 全人類のための祝福

「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。」(マルコ 2:27)

安息日は単にイスラエル人のためばかりではなく、世界のためであった。それは十誡の他の規則のように、不滅の義務としてエデンで人に知らされていた。第四条がその一部を構成する律法について、キリストは「天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく」と宣言される(マタイ 5:18)。(ビュー・アンド・ワールド 1910年8月18日)

安息日は憂鬱な日、不安で落ちつかない日ではない。両親は子供たちを戸外、木立の中、花園に連れ出し、主がご自分の愛のあらわれとしてこれらの美しい花々を彼らに与えてくださったことを教えなさい。……

思いが自然の書の教訓と六日間で世界を造り七日目に休まれた自然の神に向けられるようにしなさい。……安息日の要求を軽視してはならない。そして、安息日に食卓につくとき、キリストに養われることを望む者、すなわち神の豊かな祝福を受けたいと思う者は、その日に非常に単純な食物にあずかるのである。

思想は、わたしたちの飲食物や身にまとうものでいっぱいになるよう教育されるべきではない。わたしたちは安息日の準備をする必要がある。その日に着る衣服は整えておくべきである。(同上 1897年6月8日)

子供たちが小さいとき、わたしたちは養子の子供たちがいる大家族であった。わたしたちは日没の前に自分たちの働きを終えるのであった。子供たちは安息日を喜びの日として迎えたものだ。彼らは「さあ、お父さんとお母さんが、わたしたちのために時間を取って下さる」と言うのであった。わたしたちは彼らを散歩に連れ出し、聖書と彼らに読んで聞かせる宗教上の教えを何か持って出て、彼らに聖句を説明した。わたしたちは、彼らが神の御言の真理を知るようにと祈り続けていた。わたしたちは安息日だからといって、その朝ベッドにいつまでも横になっているようなことはなかった。わたしたちは急いだり心配したりしないで、集会礼拝に行くことができるように、前日にすべての用意をしていた。わたしたちは道草をしながら、自分のために楽しい時間を取ろうとはしなかった。わたしたちは子供たちが神の聖別された休日の特権と祝福をすべて得ることを願った。(原稿・リクス 4巻 104)

7月14日

## キリストの模範に従う

「イエスはガリラヤの町カペナウムに下って行かれた。そして安息日になると、人々をお教えになったが、その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた。」(ルカ 4:31,32)

[キリストは]天の楽しい宮廷にとどまって、世界が減びるままにはなさらなかった。わたしたちの家庭伝道はどこにあるだろうか。主がこの働きをすることのできる人々の心に関心を起こさせてくださり、暗くなっている場所に光が差し込むことができるようにと願う。安息日ごとに真理のはっきりした光の下に座ることで満足し、この光を広めるために何もしない者は自分自身はその光を失う。もしその光を保ちたいなら、それをたえず与え続けなければならない。イエスは村々をおろそかになさらなかった。(ビュー・アンド・ハルド 1891年2月3日)

安息日の朝、祈りと総会集会は非常に興味深かった。午前中わたしの夫は信仰の主題を存分に話した。それは、ルカ 12 章であった。

午後わたしは実を結ばないいちじくの木について人々に話しをした。……

その言葉は心に届いたように見えた。そこでわたしは一度も自分を神の民と考へたことなかった人々、背教者、自分は新しい回心をしなければならぬと感じた人々に前に出てくるようにと勧めた。75 人が呼びかけに応じた。わたしの夫は人々に率直に力強く話し、特に前に出てきた人々に神のみ約束に信仰を持つようにと話しかけた。彼は信仰の単純さを強調した。自分の思いを安心させるために話すことを望むすべての人に機会が与えられた。告白の多くの証がなされ、涙が流された。この日は彼らが守った初めての安息日であると多くの者が述べた。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1876年10月5日)

初めわたしは公に話す働きをおそろおそろ始めた。もしわたしに確信があれば、それは聖霊によって与えられたものであった。もしわたしが自由に力をもって語ったとすれば、それは神からわたしに与えられたものであった。わたしたちの集会はたいていこのように二人が参加して運営された。わたしの夫は教理的な説教をし、わたしが続いて適当な長さで、会衆の気持ちを溶かして入っていくような勧めをした。このように、夫が種をまき、わたしが真理のために水を与え、そして神が増し加えて下さったのである。(教会への証 1 巻 75)

## 憐れみ深い医事伝道

「するとそこに、水腫をわずらっている人が、〔イエスの〕みまえにいた。イエスは律法学者やパリサイ人たちにむかって言われた、『安息日に人をいやすのは、正しいことかどうか』。彼らは黙っていた。そこでイエスはその人に手を置いていやしてやり、そしてお帰しになった。それから彼らに言われた、『あなたがたのうちで、自分のむすこか牛が井戸に落ち込んだなら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。』（ルカ 14:2-5）

天の働きは決して一瞬たりとも止むことがない。そして、人は善を行うことを決して休むべきではない。安息日の律法は、主の聖別された休息日における労働を禁じている。生活費を稼ぐための骨折りは止めなければならない。主の日における世俗的な楽しみや利益のための労働は律法にかなっていない。しかし、病人を癒されたキリストのお働きは、聖なる安息日を汚すものではなかった。（預言の霊 2 卷 164）

〔パリサイ人、祭司、そして役人たち〕は、人間の伝統や発明について、捨て去るべきことが多くあった。彼らはエホバの律法の真の原則を学ぶ必要があった。

憐れみ深い神が愛のうちにお与えになった聖なる制度の上に、彼ら自身が考案して積み上げた伝統的な強要というごみを追い散らすために教訓が与えられなければならないことを、キリストはご覧になった。安息日はユダヤ人がしたような一厳格な重荷と強要、絶え間ない彼ら自身の発明の追加が山と積まれたもの一となるべきではなかった。この日はこの手段によって、サタンが人の思いに働きかけてしようとしていた一喜びの代わりに嘆かわしいくびき一とされてしまった。（レビュー・アノド・ヘラルド 1897 年 8 月 3 日）

主はどの人種に属するかに関わらず、ご自分が造られた被造物を同情をもってご覧になっている。……神はわたしたちの共通のみ父であり、わたしたちは各々自分の兄弟の見張り人である。」（同上 1896 年 1 月 21 日）

本物の医事伝道の働きは、神の戒めを守ることと不可分に結びついている。神の戒めの中で特に安息日が述べられているのは、その日が神の創造のみわざの大いなる記念だからである。安息日の遵守は、人のうちに神の道徳のみかたちを回復する働きと結びついている。神の民がこの時代に進めなければならないのは、この伝道である。この伝道は、正しく行われるならば、教会に豊かな祝福をもたらす。（教会への証 6 卷 266）

7月16日

## 不信が中風にする！

「イエスは〔ベテスダの病人〕に言われた、『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい』。すると、この人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩いて行った。その日は安息日であった。そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った、『きょうは安息日だ。床を取りあげるのは、よろしくない。』」（ヨハネ 5:8-10）

イエスが約束されたメシヤであられるという豊かな証拠が提示されてきた。しかし、疑おうと思う者はみなその機会を見い出した。神はご自分が望まれる者を通して、またご自分の選ばれる方法と手段を通して働かれる。しかし、いつでも批判的なパリサイ人の役割を果たす人々がいて、彼らは哀れな苦しむ人の癒しを、殺意を表す機会とすることができる。彼らは神のしもべを通して神の力が表されたことを否定できないが、なおある点で働きが彼らの判断とは一致しない。そして、もしわずかな言い訳でも見出すことができるなら、彼らはおかまいなしに疑問を差し挟み、疑い、反対するのである。

不信はいつでもそれ自体の存在理由を見出す。もし人がベテスダでの奇跡ほどの神の力の証拠がありながら、救い主の働きを批判し、責めることができるとすれば、今日彼らが批判し、責めるからといって不思議に思うことができるであろうか。神は疑いの可能性がないからではなく、知的な信仰が基とすることのできる豊かな証拠があるがゆえに人が信じることを望まれる。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1886年7月15日）

神はご自分の買われた所有を愛され、サタンが彼らを圧倒しようとする失望に打ち勝つものをご覧になりたいと切望しておられる。不信の思いがあなたの魂を苦しめることを許してはならない。なぜなら、不信は、霊的な精力におよぶ中風のように働くからである。（同上 1896年9月10日）

〔医事伝道の働き〕は、北も南も東も西も、すべての地元の教会がなすべき働きである。教会はこの働きに応える機会が与えられてきた。なぜ、彼らはそれをしてこなかったのであろうか。だれかが任務を果たさなければならない。……

ああ、どれほど多く、どれほど非常に多くのことがなされずにそのままになっていることであろうか。そしてそれにもかかわらず、どれほど多くの人々が神から与えられたタラントを正しく用いることができるはずでありながら、自分自身を心にかけて、喜ばせること以外はほとんど何もしていないことであろう。しかし、主のみ手はまだのぼされている。そしてもし彼らが今日このお方のぶどう畑で働こうと思えば、このお方は彼らの奉仕を受け入れて下さるのである。（福祉伝道 122）

## 小さいグループを助ける

「もし、モーセの律法が破られないように、安息日であっても割礼を受けるのなら、安息日に人の全身を丈夫にしてやったからといって、どうして、そんなにおこるのか。うわべで人をさばかないで、正しいさばきをするがよい」。(ヨハネ 7:23, 24)

イエスをご自分を擁護し、律法を解釈なさった大胆さは、役人たちを沈黙させた。(預言の霊 2 卷 341)

もしわたしたちが従順な者に約束された祝福を望むならば、もっと厳密に安息日を守らなければならない。わたしはわたしたちがしばしばこの日に避けることができる時に旅行しているのではないかと恐れる。主が安息日遵守に関して与えて下さった光と調和して、わたしたちはこの日に船や〔汽車〕で旅行することに関してもっと気をつけるべきである。これらの事柄において、わたしたちは子供や青年たちに正しい模範を示すべきである。わたしたちの助けを必要としている教会に到着し、神が彼らに聞かせたいと望んでおられるメッセージを伝えるためには、安息日に旅行することは必要かもしれない。しかし、できるときにわたしたちの切符の購入やすべての必要な調整はほかの日になすべきである。……

機会がある時はいつでも、他の人々に真理に関して話すべきである。(教会への証 6 卷 359, 360)

道徳的責任を軽く扱ったり、小さい事の日をさげすむことは安全ではない。(同上 4 卷 618)

安息日にわたしは、神の聖日を敬ってこのお方の礼拝のために集まる小さなグループに自由に語った。交わりの集会が続き、そこでは 16 人の証があった。わたしたちは主のご臨在が大きな集会に限られてはおらず、このお方のみ名によって集まる二人、三人のところにあることを実感した。このお方は彼らとお会いになる。すべての人が強められ、励まされたようであった。わたしはキリストのうるわしい平安とこのお方の御霊の慰めを感じた。わたしは健康がすぐれなかったが、神の恩寵の尊い証拠は、払った努力に報いてあまりがあった。

わたしたちの小さめの教会にもっとしばしば訪問することができれば、真理を擁護して堅く立つ忠実な人々は、自分たちの兄弟の証によって元気づけられ、強められることであろう。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 1 月 12 日)

7月18日

## 十字架以後の安息日遵守

「〔アリマタヤのヨセフ〕がピラトのところへ行って、イエスのからだの引取り方を願い出て、それを取りおろして亜麻布に包み、まだだれも葬ったことのない、岩を掘って造った墓に納めた。この日は準備の日であって、安息日が始まりかけていた。イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだが納められる様子を見とどけた。そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ。」(ルカ 23:52-56)

ていねいに、うやうやしく彼らは、自分たちの手でイエスのおからだを十字架からおろした。傷つき破れた主のおからだを見たとき、同情の涙が走り落ちた。ヨセフは、岩に掘られた新しい墓を持っていた。これは自分のためにとっておいたものであったが、カルバリーの近くにあったので、いま彼はその墓をイエスのために準備した。主のおからは、ニコデモが持ってきた香料といっしょに念入りに亜麻布でまかれ、あがない主は墓にはこぼれた。そこで三人の弟子たちは、傷ついた主の足をまっすぐにのばし、破れたその両手を息のたえた胸の上に組み合わせた。ガリラヤの女たちがやってきて、愛する師のなきがらの処置に手落ちがないように気をくばった。それから彼らは、重い石が墓の入口にころがされて、救い主が休まれたままにおいておかれるのを見た。女たちは最後まで十字架の下に残り、最後までキリストの墓に残った。たそがれの影が濃くなってきても、マグダラのマリヤとほかのマリヤたちは、主の休まれた場所のあたりを立ち去りかねて、愛するおかたの運命に悲しみの涙を流した。(各時代の希望下巻 300,302)

ルカは救い主の埋葬についての自分の記録の中で、このお方の十字架の時に、このお方と共にいた女たちについて、「そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ」と述べている(ルカ 23:56)。

救い主は金曜日、すなわち週の第六日に埋葬された。女たちは主の体に施す香料と香油を用意して、それをそのままにしておき、安息日が過ぎるまで待った。イエスの体に香料を施す働きでさえも、彼らは安息日には行わないのであった。(イエスの物語 157)

## 機会をつかむことを学ぶ

「パウロとその一行は、パposから船出して、パンフリヤのペルガに渡った。ここでヨハネは一行から身を引いて、エルサレムに帰ってしまった。しかしふたりは、ペルガからさらに進んで、ピシデヤのアンテオケに行き、安息日に会堂にはいって席に着いた。律法と預言書の朗読があったのち、会堂司たちが彼らのところに人をつかわして、『兄弟たちよ、もしあなたがたのうち、どなたか、この人々に何か奨励の言葉がありましたら、どうぞお話し下さい』と言わせた。そこでパウロが立ちあがり、手を振りながら言った。『イスラエルの人たち、ならびに神を敬うかたがたよ、お聞き下さい。』(使徒行伝 13:13-16)

すべての人が、今自分たちの運命を決定しつつある。人々は時代の厳粛さ、人類の恩恵期間が終わる日が近づいていることを悟るために目覚める必要がある。この時代のためのメッセージを人々の前に際立たせるために決定的な努力がなされるべきである。第三天使は非常な力をもって出ていくべきである。だれもこの働きを無視したり、重要性の薄いものとして扱うことのないようにしなさい。神の民は自分たちの働きが世界中をめぐるまで止めてはならない。真理がすべての人類に宣布されなければならない。……

わたしたちは世界中が見ている中で自分たちの原則を擁護して堅く立たなければならない。……様々な賜物をもったあらゆる階級、能力の人々が、神から与えられた武器を身にまとい、共通の結果を目標に調和して協力しなければならない。彼らは真理をあらゆる国民と人々に伝える働きにおいて一致しなければならない。(（オーストラリアの）連合総会記録 1901年1月1日)

み言葉の真理が魂のうちに織り込まなければならない。それは受けた者の魂を祝福するために内に働き、他の人々の魂を祝福するために外に働く力である。み言葉を読むとおりに受け入れ、それを行う者となりなさい。聖霊は聖書を探る献身した魂に働いて下さる。

今、まさに今こそ、わたしたちが命の言葉を研究すべき大きな機会である。この世の多くの人々の心は命の言葉に飢えており、救いの水に渇いている。彼らは聖書を知りたいと望んでいる。彼らは、神が彼らに仰せになっている言葉を知りたいと望んでいる。聖霊は彼らの心に印象づけて下さり、彼らを命の言葉へと引き寄せて下さっている。彼らは自分たちの周りが何もかも変っていくのを見ている。彼らは書かれてある通りのみ言葉を聞きに来る。彼らが堅固な基礎の上に建てたいと願っているがゆえに、クリスチャンは自分たちのうちにある望みの理由について柔和と畏れをもっていつでも説明できるようにしなさいと勧告されている。(レビ・アソ・ヘラルド 1900年5月1日)

7月20日

## 異邦人が安息日を喜ぶ

「ふたりが会堂を出る時、人々は次の安息日にも、これと同じ話をしてくれるようにと、しきりに願った。そして集会が終わってからも、大ぜいのユダヤ人や信心深い改宗者たちが、パウロとバルナバとについてきたので、ふたりは、彼らが引きつづき神のめぐみにとどまっているようにと、説きすすめた。次の安息日には、ほとんど全市をあげて、神の言を聞きに集まってきた。」(使徒行伝 13:42-44)

ユダヤ人が……会堂を去った後も、異邦人たちはまだそこに残り、次の安息日にも自分たちにこれと同じ話をしてくれるようにと願った。使徒たちはその場所でもユダヤ人にも異邦人にも大変な関心を呼び覚ました。彼らは信徒や改心者たちに、自分たちの信仰のうちに固く立って、引き続き神の恵みにとどまっているようにと励ました。使徒たちの言葉を聞きたいという関心があまりにも大きかったために、次の安息日には、全市を上げてやってきた。しかし今や、キリストの時代と同じように、ユダヤ人の祭司や役人が、新しい教理を聞くために集まった大群衆を見たとき、ねたみと嫉妬に動かされた。……彼らが会衆のユダヤ人の中に多数の異邦人がいるのに気づいて、彼らのかつての偏狭や偏見もまた目覚めた。……

彼らはある安息日に、イエスを約束されたメシヤとして宣布していたパウロとバルナバの教えを非常に興味をもって聞いていた。次の安息日に、異邦人の群衆もまた彼らの言うことを聞くために集まっていたために、彼らは憤りのあまり熱狂するまでに興奮し、使徒たちの言葉は彼らの思いの中でゆがめられた。そして彼らは使徒たちによって提示された証拠を量るのにそぐわないものとなった。使徒たちによって宣布されているメシヤは、このお方の民であるイスラエルの栄光であると同様に、異邦人にとって光となれることがわかると、彼らは怒りのあまりにわれを忘れて、使徒たちに対し、最も侮辱的な言葉を用いた。

その一方で異邦人たちは自分たちが神の子として認められたことを非常に喜んだ。そして感謝の心をもって、彼らは宣布されるみ言葉を聞いた。使徒たちは今やはっきりと神が彼らにおさせになりたい義務と働きを見極めた。彼らはためらうことなく異邦人たちに向かい、彼らにキリストを宣べ伝えた。(パウロの生涯からのスケッチ 48-50)

## 実り多い伝道者である安息日

「ある安息日に、〔パウロ、シラス、テモテ、ルカ〕は町の門を出て、祈り場があると思って、川のほとりに行った。そして、そこにすわり、集まってきた婦人たちに話をした。ところが、テアテラ市の紫布の商人で、神を敬うルデヤという婦人が聞いていた。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに耳を傾けさせた。」(使徒行伝 16:13, 14)

ルデヤは喜んで真理を受け入れた。彼女と彼女の家族は改心してバプテスマを受けた。そして彼女は使徒たちに自分の家に泊まってほしいとしきりに願った。

神の御霊だけが、啓発されることを喜ぶ者たちの理解力を啓発することができる。わたしたちは神がルデヤの耳を開かれ、パウロによって語られるメッセージに注意がむけられるようにして下さったことを読む。神の勧告全体と、ルデヤが受ける入れるために重要不可欠なことをすべて宣言すること—これが彼女の改心においてパウロの果たすべき役割であった。それから、あらゆる恵みの神がご自分の力を働かせ、魂を正しい道へ導いて下さるのであった。神と人間の代理人が協力した。そして働きは完全に成功であった。(キリストを映して 343)

あらゆる場所に病人が見出されるであろう。だから、キリストのための働き人として出ていく人々は、病気にかかっている人にそれらを癒す単純な治療法を教え、それから彼らと共に祈る準備のできた真の健康改革者であるべきである。こうして彼らは真理が入るための戸を開くことになる。この働きをするとき、良い結果が続く。安息日を遵守するわたしたちの家族は、隣人に対する助けとなれるように、自分たちの思いが健康改革や他の分野の真理の健全な原則で満たされているように保つべきある。実践的な伝道者となりなさい。病気の治療に助けとなる可能な限りあらゆる知識を集めなさい。勤勉な生徒であればこれが可能である。

わずかな者しかわたしたちの医療施設で訓練課程を履修することはできないが、すべての者がわたしたちの健康の文献を研究し、この重要な主題に関して知的になることができる。(医事伝道 320)

言葉やパンフレットによって光を普及させるためにすべての人に万全の準備をさせなさい。秋の木の葉のように何百もの小さなトラクトがまかれるべきである。(原稿リス 4 巻 107)

7月22日

## キリストにおける靈的休息の象徴

「ところが、わたしたち信じている者は、安息にはいることができる。それは、『わたしが怒って、彼らをわたしの安息に、はいらせることはしないと、誓ったように』と言われておりである。しかも、みわざは世の初めに、でき上がっていた。すなわち、聖書のある箇所、七日目のことについて、『神は、七日目にすべてのわざをやめて休まれた』……こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もわざを休んだからである。したがって、わたしたちは、この安息にはいるように努力しようではないか。そうでないと、同じような不従順の悪例にならって、落ちて行く者が出るかもしれない。」(ヘブル4:3, 4, 9-11)

だれも聖化された時間を自由に無益なやり方で過ごしても良いと感じるべきではない。安息日遵守者が安息日の多くを眠ることは、神にとって不快なことである。彼らはそうすることによって自分たちの創造主を辱め、また自分たちの模範によって、彼らにとっては六日間が休息の時間を取るにはあまりにも貴重だと言っているのである。彼らは必要な睡眠を自ら奪い、そのために聖なる時間に眠ることによって埋め合わせをすることになってでも、お金を稼がなければならない。彼らば安息日は休息の日として与えられた。わたしは休息を必要としているから、集会に出るために休息を自ら奪うことはしない」と言い訳する。そのような人は聖化された日を悪用しているのである。彼らは特別その日に、家族に安息日の遵守に関わらせ、事情に合わせて、数人もしくは多くの人々と祈りの家に集まるべきである。彼らは自分たちの時間と精力を靈的な訓練に捧げて、安息日に宿る神聖な感化力が週の間彼らに伴うようにすべきである。一週のうちに、安息日ほど献身的な思いと気持ちのために好ましい日は他にない。

全天は安息日に第四条の要求を認める人々が安息日を守るかどうかを眺め、見張っていることを示された。御使たちはこの神聖な制度への彼らの関心と高い敬意に注目している。厳密な敬神の思いをもって主なる神を自分たちの心の中で聖別する人々、また最大限の能力を生かして安息日を守り、神聖な時間を活用しようと努める人々、安息日を喜びの日と呼ぶことによって神に誉れを帰すよう努める人々—これらの人々は、御使たちが特別に祝福している。(教会への証 2巻 704, 705)

## 正しい道しるべに従おう!

「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである。」(出エジプト記 31:13)

クリスチャン世界は神の印以外のものを選んできた。わたしの読んだ記述を少し引用する。そのタイトルは、「変えられた道標」であった。「何年か前、……二つの道が会おう分岐点に立てられた道標の向きを変えることが面白い冗談だと思われていた。もちろん、それによってしばしば生じた困惑と悲慘さとは大きなものであった。かつてこの世の旅路を行く人々のために神によって道標が立てられた。幸福への道は、かつてユダヤ人の時代下における逃れの町への道のようにはっきりと区別されていた。道標の一方の矢印は、幸福への道として創造主への愛の従順を指し示していた。その一方もう一つの矢印は悲慘さへの道として、不服従、もしくは罪が指し示されていた。わたしたち人類の邪悪な時代に、大敵が道標の向きを変えたため、その時以来、大多数の人々は真の幸福への道を誤っている」。

主は明確に命と真理は従順の道で見出されると述べてこられた。従順はすべての人が従うべき地境である。神は第七日目が主の安息日であると宣言してこられた。このお方はこの日が代々にわたりご自分とご自分の民の間のしるしとなるべきであるとはっきり述べられて、この日をご自分の創造のみわざの記念日として高められた。出エジプト記の31章では三度繰り返されており、その語り手はイエス・キリストであられたのである。……

主ははっきりと神の都への道を定められたが、大敵が偽りのもの一偽の安息日一を立てることによって、道標を変えてしまった。……

あらゆる善に対する敵が道標の向きを変えてしまったために、道標は不服従の道を幸福への道として指し示している。彼は、「主はこう言われる」に従うことを拒むことによってエホバを侮辱した。彼は時と律法を変えようとした。しかし、それができたであろうか。出エジプト記31章のみ言葉がこの問題に対して答えている。ご自身の指をもって主は石の板に戒めを記されたのである。(ビュー・アット・ハラルド 1900年4月17日)

7月24日

## 永遠の契約

「ゆえに、イスラエルの人々は安息日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らなければならない。これは永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである。それは主が六日のあいだに天地を造り、七日目に休み、かつ、いこわれたからである』。(出エジプト記 31:16, 17)

わたしたちはこれほどはっきりとした言葉で与えられた神のご命令をわきに置き、不法者の道に従うのであろうか。だれがあえて道標を変え、誤った道を指し示させ、不法の者を擁護するのであろうか。人間の制度を主の偉大な記念のあるべきところに据えることは恐ろしいことである。神が聖別され、祝福され、ご自分の聖なる日として宣言された日をわきへ置くために、人間が力をほしいままにして、その場所に通常の働き日を据えること、また人々がこの日を敬い、崇敬するように強要しようとするのは恐ろしいことである。

主の言葉は真理である。わたしたちはその意味を間違えようがないほど、それははっきりしている。人々が必要としているのは証拠ではない。なぜなら、彼らにはそれがあるからである。しかし、彼らは主の戒めの道に歩みたくないのである。世は神聖なみ旨に反対して歩んでいる。しかし、神はこの地上に民をもっておられる。そしてこのお方と彼らの間で安息日はしるしであり、それによって彼らは主が自分たちを聖化して下さる主であられることを知るのである。……

主はわたしたちに何を要求しておられるのであろうか。ご自分の安息日を「永遠の契約として」遵守することである。神はすべての家族がこの印を帯びることを望んでおられる。こうして、わたしたちは神の戒めに忠実で真実であることを示すことができる。神への不敬に満ちているこの世を見なさい。一瞬で命の息を呼吸するすべての魂を滅ぼすことのできるお方に対してあからさまな反逆のうちにいる。何がこの世をこれほど暴力の満ちたところとしたのであろうか。神の律法に対する軽蔑である。これが洪水前の世に反逆と墮落を満たしたものであった。今日、偽の安息日に対して示される敬意を見なさい。そしてこの偽の休息日を守るために法律を作る人々はまた、酒の取引を合法化するために法律を作る。理性を取り去ることによって、神のみかたちに造られた存在を残酷にするのろいである。(ビュー・アンド・ハルド 1900年4月17日)

## 「主の日に御霊に感じた」

「あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。ところが、わたしは、主の日に御霊に感じた。」(黙示録 1:9, 10)

「神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます」(ヨハネ第一 3:24)。

神の戒めへの従順によって、神を尊ぶ人々を神は尊んで下さる。愛された弟子ヨハネは、その忠実さのゆえにパトモス島に流されていた。彼は次のように記している、「あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。ところが、わたしは、主の日に御霊に感じた」(黙示録 1:9, 10)。ヨハネはここで日曜日のことを言っているのであろうか。主の日と呼ばれる日はただ一日だけであり、それは週の第七日目、すなわち創造の時に制定された安息日である。神は六日の間に世界を創造され、七日目に休んで、新たに活力を得られた。神はこの日を祝福し、聖化し、そして創造の記念として守るために取りおかれた。そしてこの第七日目にヨハネは自分の後ろのほうで「ラツパのような大きな声がするのを聞いた。その声はこう言った、『あなたが見ていることを書きものにして、それをエペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤにある七つの教会に送りなさい。』」「そこでわたしは、わたしに呼びかけたその声を見ようとしてふりむいた。ふりむくと、七つの金の燭台が目についた。それらの燭台の間に、……人の子のような者がいた」(黙示録 1:10-13)。こうして、キリストはヨハネの変わらないご自分への従順のゆえに、彼を尊ばれた。

アダムとエバは、他の者の言葉を神の言葉より優先して受け入れたために、エデンや命の木への道を一切失った。この不服従の行為によって、苦悩の洪水の門がわたしたちの世に開かれた。しかし、神のみ言葉に変わらず固守する人々は、次の祝福を聞くようになる、「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、このお方の戒めを行う者たちは、さいわいである」(黙示録 22:14 英語訳)。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1897年5月13日)

7月26日

## 神の聖化の印

「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別した(聖化する)ことを、彼らに知らせるためである。」(エゼキエル 20:12)

安息日は神とその民を一つにする留め金である。(レビュ・アソド・ハラド 1902年10月28日)

神に聖別され祝福されて、安息日は創造の偉大な記念、また人類への祝福となるよう計画された。しかし、人間はそれを足の下に踏みじった。キリストが人のかたちをとってわたしたちの世に来られたときに、このお方がテストであったように、安息日は今日のテストである。それは、ユダヤ国家に対するキリストのように、クリスチャン世界に対する動かされない攻撃の岩としていつまでも立つのである。キリストを拒絶することがユダヤ人の永遠の運命を決定したように、神の聖なる記念日を拒絶することが多くの自称クリスチャンの運命を決定する。

多くの人が安息日を見捨て、それを自分たちの足の下に踏みつけるかもしれないが、彼らは自分たちに対するその拘束力を少しでも減らすことはできないのである。だれひとりとして、主の安息日の上に積み上げられたごみを受け入れる言ひ訳の余地はない(同上 1898年12月20日)

偽の安息日のために神の聖なる休日を無視する自称クリスチャンによって、聖化が主張されている。しかし、神はその戒めに従うことによってご自分を尊ぶ人々だけに、ご自分からくる聖化が与えられることを宣言しておられる。不法のうちに続ける人々によって主張される聖化は、偽の聖化である。こうして宗教界は神と人の敵によって欺かれている。

宮の奉仕において、主は祭司たちに神ご自身がともされた聖なる火だけを自分たちの香炉に用いるようにと特別な指示をお与えになった。それを昼も夜も保たなければならなかった。しかし、ナダブとアビフは、ぶどう酒を用いることによって判断力をゆがめ、聖なるものと俗なるもの間の区別ができなくなった。彼らは、「おのおのその香炉を取って火をこれに入れ、薫香をその上に盛って、異火を主の前にささげた。これは主の命令に反することであった」(レビ記 10:1)。

週の第一日目をきよく守るために主の安息日を見捨てる人々は、神に異火を捧げているのである。それは主が彼らにお命じになったことのない、異なる安息日である。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1898年3月31日)

## このお方がわたしたちの神であるというしるし

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」  
(エゼキエル 20:20)

人は安息日に関して、わたしたちが時の七分の一を守っているなら、どの日を守ろうと違いはないと言う。彼らはどうして神のみ言葉を人の言葉と取り換えるようなことがあえてできるのであろうか。どうして人類同胞を創造主への服従から導きそらすようなことができるのであろうか。……

人間の理論をもっている人は、わきへ退かせなさい。神のみ声が、「それゆえ、あなたがたは安息日を守らなければならない。これはあなたがたに聖なる日である。……これは永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである」と仰せになるのが聞かれるようにしなさい (出エジプト記 31:14, 17)。……

神の律法が無効にされている。そして、神はわたしたちに真理を擁護して立つようにと召しておられる (ビュー・アソド・ハルド 1901年6月4日)

安息日を生ける神の印として知っているわたしたちは、そのしるしを捨てることに同意するのであろうか。わたしたちはそれを捨てたいのであろうか。あるいは、わたしたちは神の戒めを守る民を区別するために神が与えて下さったしるしを守り、大事にしたいと望むのであろうか。この偉大な真理に対する世の頑固な不信によって、真理の重要性が減じることはない。わたしたちが従うことを拒んだとしても、それはなお真理である。もし導いていただかないなら、それはわたしたちを責めるのである。

今は、無効にされてきた神の戒めを尊ぶようにとこのお方が召しておられる時である。わたしたちの上に光が照らされるや否や、わたしたちは声とペンと感化力によって、神の律法の破れを繕うように努めなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年6月12日)

神はご自分の愛と憐れみの、またご自分の民の従順の、継続的な印とするために、安息日をお与えになった。ご自分がこの日に休まれ、新たに活気づけられたように、このお方はご自分の民が休息し、新たに活気づけられることを望んでおられる。それは自分たちが神の恵みの契約のうちに含まれていることを常に彼らに思い起こさせるべきであった。このお方は次のように言われる、安息日はあなたがたの時代を通じて、わたしがあなたがたを聖化する主であり、わたしの特別な民としてあなたがたを選び取り分けたというわたしの印、わたしの誓いとなるべきである。そしてあなたがたが安息日をきよく守るとき、あなたがたは地上の国々に、自分たちがわたしの選んだ民であることを証するのである。(ビュー・アソド・ハルド 1902年10月28日)

7月28日

## 終りの時代のためのメッセージ

「主はこう言われる、あなたがたは公平を守って正義を行え。わが救の来るのは近く、わが助けのあらわれるのが近いからだ。安息日を守って、これを汚さず、その手をおさえて、悪しき事をせず、このように行う人、これを堅く守る人の子はさいわいである」。(イザヤ 56:1,2)

この危険な時代、わたしたちが神の律法に対する全世界的な軽蔑を見、世界が第四条の安息日と偽ものの安息日の間で選択しつつあるときに、わたしたちは安息日についての主の言葉を減じるようなことを一言でも言うのであろうか。主なる天の神は、蔓延した悪が選ばれた信徒たちに対して、どれほど鈍感にする感化力を及ぼし、またどれほど神への敬神と真の忠誠に対して麻痺させる力となるかをご存じであった。わたしたちの主なる救い主の再臨が近づいているしるしである出来事についてわたしたちに述べて、キリストは、「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう」と言われる(マタイ 24:12)。わたしたちはこれが文字通りに成就していることを見る。多くの人の経験は矮小化(わいしょうか)し、病的になり、そして驚くほど損なわれている。わたしたちを囲むすべてのものは、不義にまみれた雰囲気を作り出している。最も忠実な状況にあつてさえ、クリスチャンの信仰告白を終りまで堅く保ち、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために、断固として立ち、熱心であることは難しい。しかし、互いに助け、励ます人々の数が少なく、これらの人々の多くが神の戒めを真に忠実に守ることによって神を尊ばないがゆえに、病的で今にも死にそうなとき、神の聖なる戒めに対して真実かつ忠実であり続けることは最も困難である。

いわゆるキリスト教が、純真で忠誠な堅実さで通用しているが、これはそれを告白する人々が真理のゆえに迫害を受けていないためである。神の律法が無効にされ、地に住むすべての人を試みる火のような試練によって教会がふるわれる日が来ると、本物だと思われていた人々の大部分が、惑わす霊に耳を傾けて裏切り者となり、聖なる真理にそむくようになる。彼らはわたしたちの最悪な迫害者となる。(同上 1897年 6月 8日)

## 喜ばしい任務

「もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。」(イザヤ 58:13, 14)

働き人の小さなグループは主の伝道者として出ていき、キリストが初期の弟子たちに命じられたとおりに行いなさい。二人ずつ、わたしたちの都市の様々な場所へ入っていき、主の警告のメッセージを伝えなさい。人々に創造の物語と、主がご自分の働きを閉じるにあたり、安息日に休んで祝福なさり、ご自分の働きの記念として取り分けられたことを語りなさい。

教会員は老若共に、世にこの最後のメッセージを宣べ伝えるために出ていくよう教育されるべきである。もし彼らが謙遜のうちにいくならば、神の御使たちが彼らに伴い行き、祈りのうちに声を上げること、いかに歌声を上げるか、そしてどのようにこの時代のための福音のメッセージを宣布するかを教えてください。一瞬たりとも失ってはならない。……

だれがこの聖書の真理を老若に教える働きに取りかかるであろうか。だれがキリストの働きのご計画に従って、メッセージを伝えるであろうか。……

あなたはこのお方のみ声に注意を払うであろうか。あなたはこのお方の使命者となるであろうか。あなたは失われた羊を探すであろうか。あなたは、聞こうとしない人々に謙遜と熱心さをつくしてみ言葉を教えるであろうか。

青年男女の方がた、神があなたを召しておられる働きに取りかかりなさい。十字架の驚くべき物語をかたりなさい。キリストはあなたを導き、良い目的のためにあなたの能力を用いることを教えて下さる。あなたが聖霊の生き返らせる感化力を受け、他の人々に教えようと努めるとき、あなたの思いは新たな活力を受け、あなたの言葉を聞く人々に新しく不思議に美しい言葉を提示することができるようになる。祈り、讚美し、み言葉を語りなさい。……

霊的な自由は全面的に献身する人々にもたらされる。そしてキリストの生き返らせる恵みは、光と平安と喜びをもたらす。(上を仰いで 91)

7月30日

## 破れを繕う者

「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」(イザヤ 58:12)

イザヤ 58 章には神の民がなすべき働きの大要が述べられている。律法の中に破れが作られた。そしてこの破れは繕われなければならない。真の安息日が神の休息の日として正当な地位に回復されなければならない。律法が拡大され、尊ばれなければならない。この働きをする人々に主は、『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ばれるようになると言われる(12 節)。(ビュー・アソド・ハラド 1902 年 10 月 28 日)

この地上における神の最後の働きにおいて、神の律法の標準はふたたび高められる。偽りの宗教は普及し、不法ははびこり、多くの人の愛は冷え、カルバリーの十字架は見失われ、死のとばりのような暗黒が世界を覆うことであろう。一般の風潮は、あげて真理に反対するであろう。神の民を滅ぼすために次々と策略がめぐらされることであろう。しかし最大の危機において、エリヤの神は、沈黙させ得ない使命の伝達者を起こされるのである人口緻密な都市において、また、至高者に反対して語ることがその頂点に達した場所において、厳しい譴責の声が聞かれるのである。神の任命を受けた人々が、大胆に教会と世俗との結合を非難するのである。彼らは人間が造った制度を守ることをやめて、真の安息日を守るように熱心に人々に訴えるのである。……

すべての人に試練がやってくる時は、あまり遠くはない。われわれは偽の安息日を守るように強制される。それは、神の戒めと人間の戒めとの間の争いである。(国と指導者上巻 155,156)

わたしは、神が、安息日を理解してもいなければ守ってもいない子供たちを持っておられるのを見た。彼らはまだ安息日についての光を拒んではいなかった。悩みをときの開始にあたって、われわれが出ていってもっと徹底的に安息日を宣べ伝えたとき、われわれは聖霊に満たされた。(初代文集 93)

## 永遠の前の最後のテスト

『わたしが造ろうとする新しい天と、新しい地がわたしの前にながくとどまるように、あなたの子孫と、あなたの名はながくとどまる』と主は言われる。『新月ごとに、安息日ごとに、すべての人はわが前に来て礼拝する』と主は言われる。』（イザヤ 66:22, 23）

どの地上統治者も、六日の間に世界を造って第七日目に休まれ、それを聖別し祝福された統治者より上に見られてはならない。（原稿リ-ス 3 巻 39）

わたしたちがどの日に休もうと、七日の間の一日であれば何の違いもないといって、神の定められた安息日の遵守を拒む言い訳がしばしばなされる。しかし、あなたがどの日に休むかは大違いである。神の命じられた日に休むことはあなたが天地の造り主を尊んでいる事実を表し、無視するという事実はあなたが神を尊ばないことを明らかにするのである。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894 年 1 月 8 日）

歴史は繰り返す。偽りの宗教が高められる。週の第一日目、すなわち神聖さも何もない普通の働く日が、バビロンにおける偶像のように打ち立てられるようになる。……

試練と迫害は、神のみ言葉に対して従順で、この偽りの安息日に礼拝することを拒むすべての人に及ぶ。武力はすべての偽りの宗教の最終手段である。はじめはバビロンの王が音楽や外面的な見せびらかしの力を試したように、魅力あるものをためす。サタンの靈感を受けた人間の発案したこれらの魅力では、人々に偶像を拝ませることができないとき、なめつくす炉の炎が彼らを焼きつくそうと待ち構えていた。今も同じである。（同上 1897 年 5 月 6 日）

主に対して安息日をきよく守ることは、永遠の救いを意味する。神は「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊ぶ」と言われる（サムエル上 2:30）。（教会への証 6 巻 356）

天地が存続する限り、安息日も創造主の力のしるしとして続く。そしてエデンが地上で再び花開くとき、神の聖なる休日も日の下のすべてのものによって尊ばれるのである。「新月ごとに、安息日ごとに、すべての人はわが前に来て礼拝する」と主は言われる（イザヤ 66:23）。（レビュー・アンド・ヘルド 1910 年 8 月 18 日）

8月1日

## 園での良い時間

「主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。」(創世記 2:15)

アダムとエバは手入れをするようにとエデンの園を与えられた。彼らは「これを耕」し、「これを守」るのであった(創世記 2:15)。彼らは自分たちの仕事において幸せであった。思い、心、意志が、完全に調和して動いた。彼らは自分たちの仕事に疲労や苦勞を感じず、その時間は有益な働きと互いの交わりで満たされていた。(原稿・リ-ス10 卷 327)

アダムはエデンの園で精を出して働き、そのように行うことは彼の聖なる存在の喜びの一つであると感じた。後に彼が自分の不従順の結果としてその美しい家庭から追い出され、日々の糧を得るために固い土壌で苦勞しなければならなかったとき、園の楽しい仕事とははるかに違っていたが、まさにその労働が彼の悲しんでいる魂に慰めとなり、誘惑への防壁となった。

思慮深い労働は人類にとって健康的な強壯剤である。それは弱々しい者を力強くし、臆病な者を勇敢にし、貧しい者を金持ちにし、不幸な者を幸福にする。わたしたちのさまざまな責任はわたしたちのさまざまな能力に比例する。どの人も自分の個々の能力に応じて神から報いを受ける。このお方はご自分が僕にお与えになったタラントに見合う収益を期待なさる。報酬を決定するのは所有しているタラントの多さではなく、多かろうと少なかろうとそれが用いられた方法、人生における義務を行った忠実さの程度による。多く与えられたところは多く要求される。

だれでも自覚してよく働くなら、それが商店、畑、説教壇どこであろうと彼が働いたその精神に応じて報いを受ける。

怠惰は人に降りかかることのできるもっとも大きなのろいである。なぜなら悪い行いと犯罪がそれに続くからである。サタンは待ち伏せし、何か魅力的な見せかけのもとに……用心していない人、すなわち自分の暇な時間によってサタンに機会を与える人を、驚かせ、滅ぼそうとしている。何もしていないときに人々のところへ来るときほど、サタンが成功するときはない。(健康改革者 1876 年 9 月 1 日)

屋外運動は生命維持に必須なものとして勧めなければならない。この種の運動としては土地を耕作するよりほかによいものはない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 243)

## 田舎の家庭

「わが民は平和の家におり、安らかなすみかにおり、静かな休み所におる。しかし林はことごとく切り倒され、町もことごとく倒される。」(イザヤ 32:18,19)

ロトがソドムに行ったとき、彼はわが身を不義から守り、自分にならう者とするように家族の者を治める気持ちは十分に持っていた。だが彼は大失敗をした。墮落した周囲の感化は彼自身の信仰に影響を与えた。また子供たちがソドムの住民と結婚したために、彼の関心はある程度彼らの関心に結びついた。その結果はわたしたちに示されている。多くの人々はいまも同じような過ちを犯している。

あなたの家庭をソドムとゴモラからできるだけ離れたところを選ぶため、あるいはつくるために研究しなさい。たとえそうしたために富裕になれなくとも、できればあなたの家庭を静かな田舎につくりなさい。いちばんよい影響のある所に住みなさい。

わたしは教会の人々に、家族を住まわせる家を求めて都会にむらがないよう警告することを主に命じられた。父親と母親がたに、あなたがたの子供たちを自分の屋敷の中で育てるようにと告げることを主に命じられた。(アドベンチスト・ホーム 144)

町から離れていなさい。都市にサニタリウムを建ててはならない。都市から田舎へ移るようにとわたしたちの民を教育しなさい。そこで彼らは小さな土地を手に入れ、自分と子供たちのために家庭を作ることができる。ロサンゼルス町のサニタリウムを建設することに関して質問が起こったとき、わたしはこの動きに反対しなければならないと感じた。わたしはこの事柄に関して非常に重い重荷を担い、沈黙を守ることはできなかった。兄弟がた、わたしたちは天におられる主からあわれみと愛のうちにわたしたちに送られた証に聞き従うときである。

わたしたちのレストランは都市になければならない。なぜならこれらのレストランにいる働き人は他の方法では人々に接触することはできず、彼らに正しく生きる原則を教えることができないからである。そして今さしあたっては、都市に集会所を賃借りしなければならないであろう。しかしまもなく都市を離れたいと望む者が離れることのできなくなるような闘争と混乱があるであろう。(世界総会冊子 1903年4月6日)

8月3日

## 農作技能の祝福

「あなたの羊の状態をよく知り、あなたの群れに心をとめよ。」(箴言 27:23)

都市から離れよというのがわたしの絶え間ない忠告となっている。しかしわたしたちの民が目覚めて状況を理解するのに何年もかかっている。主が、彼らに都市を離れ、田舎の静かなところで自分たちの働きをし、騒動、騒音、混乱から離れるようにと望んでおられることに気がつくのに、彼らは何年もかかっている。(特別な証 B シリーズ No.036,14)

最上の感化力があるところに来なさい。あなたの子供たちに仕事を与え、何か手に職を習わせなさい。彼らに土地を耕すことを教えなさい。もしあなたが彼らを忙しくさせておかないなら、悪魔がそうするであろう。子供たちの思いは活発なため、実生活の重荷をになう仕事に従事させられる必要がある。彼らが自分たちのやることを拾い上げるままにさせてはならない。両親が自らこのことを監督しなければならない。(レイク・ユニオン・ヘラルド 1909 年 4 月 7 日)

心ある働き人は土を耕してみても思いがけない宝が目の前にあらわれるのに気がつく。農業や園芸においては、そこに含まれている法則に注意を払うことなしには、だれも成功することはできない。それぞれの種類の植物について、その特殊な必要を研究しなければならない。種類の相違によって、それぞれ異なった土壌と栽培が必要であり、おのおのを支配している法則にしたがうことが成功の条件である。

移植に必要な注意、すなわち毛根を密着させたり置きちがえたりしないことや、苗の保護、剪定や灌水、夜は霜を昼は太陽を防ぎ、雑草、病気、害虫を防ぎ、整枝、配列に気をつけるなど、すべてこうしたことは品性の発達についてたいせつな教訓を教えるばかりでなく、また働きそのものが発達の手段でもある。注意深さ、忍耐力、こまかいことに対する注意、法則に従う観念などを養う上にこのような働きは非常にたいせつな訓練となる。生命の神秘や美しい自然との絶えまない接触は、神の創造されたこれらの美しいものに奉仕することによって生ずる心のやさしさとともに、心をいきいきとさせ、品性を洗練して高める上に役立つ。そして、そこに教えられる教訓によって、働き人は、人の心をいっそうじょうずに取り扱うことができるようになる。(教育 118,119)

## 農業的な知恵

「なまけ者は寒いときに耕さない、それゆえ刈入れのときになって、求めても何もない。」(箴言 20:4)

クリスチャンの農夫は、貧困者がその地方に家を持ち、土地を耕作し、農作物がとれるようにする方法を教えることによって真の伝道事業をすることができると。農具の使用法、各種農作物の栽培方法、果樹の植え方、取り扱い方を教えなさい。

土地を耕作しているが、怠慢のために十分な収穫が得られない者が多い。その果樹園は適切に管理されておらず、適当な時期に種子がまかれておらず、また土地は単に表面だけしか耕作されていない。それでいて、不成功に終ると土地が悪いくせにする。よく働けば豊かな収穫が得られる土地を悪くいう偽りのあかしがたてられることがしばしばある。目先だけの計画や、わずかばかりの努力や、最善の方法に関する研究の不足は、改革を非常に必要としている。

喜んで学ぼうとする者にはすべて正しい方法を教えなさい。もし進歩した考案を聞きたくない人がいるならば、沈黙のうちにそれを教えなさい。自分の土地をりっぱに耕作し、機会あるごとに少しずつ教え、正しい方法がよいことをその収穫に雄弁に物語らせるようになさい。(ミストリー・オブ・ヒーリング 168,169)

他の人々にどのように耕し、どのように農耕具を使用するかを教育する人が求められている。だれがこの働き、すなわち青年たちに適切な方法を教え、学ぶだけの意欲と謙遜さがあるすべての人に教える働きをする伝道者になるであろうか。もしより改善された考えを自分に教えてほしくないと思う人があれば、果樹園を整え、とうもろこしを植えることによって、何ができるかを示し、静かに教訓を与えなさい。あなたの収穫物に、労働の正しい方法に対して有利に雄弁に語らせなさい。(クリスチャン教育の基礎 324)

農業がわたしたちのサニタリウムと学校の働きに結び付けられるのが神のご計画である。わたしたちの若者にはこの分野の働きから得られる教育が必要である。この面における主のご計画を実行するために努力が払われることは望ましいだけでなく、不可欠なことである。(教会への証 8 巻 228)

8月5日

## 勤勉の習慣を発達させる

「わたしはなまけ者の畑のそばと、知恵のない人のぶどう畑のそばを通してみたが、いばらが一面に生え、あざみがその地面をおおい、その石がきはくずれていた。わたしはこれを見て心をとどめ、これを見て教訓を得た。しばらく眠り、しばらくまどろみ、手をこまねいて、またしばらく休む。それゆえ、貧しさは盗びとのように、あなたに来、乏しさは、つわもののように、あなたに来る。」(箴言 24:30-34)

あなたの力強さはあなたの家族を豊かに支えるのに十分である。もし必要ならば、朝まだ星が瞬(またた)いている頃に起きなさい。何かを行う計画を立て、そのあとそれを成し遂げなさい。病気で寝込むことがないかぎり、どのような誓約も償いなさい。他人が当然支払いを受けるべきものを与えずにおく罪を犯すよりは、食物や眠りを取らない方が良い。

向上の丘は努力なくしてはのぼれない。宗教的なことであろうと世俗のことであろうと、自主的に努力をするのでなければ賞を得ることを期待するには及ばない。競走は必ずしも敏速な者のためではなく、戦いも強い者のためではないが、怠惰な手をもってとり扱う者は必ず貧しくなる。辛抱強い者、勤勉な者は自分が幸せなだけでなく、他人の幸福に大きく寄与する。能力と快適さは、熱心な勤勉さという代価を払わない限り、普通に手に入るものではない。……

女性は自分の仕事と家族の仕事もするとき、一夫と息子たちは打ち解け、くつろいで暖炉のそばに座っている間、彼女が薪(たぎぎ)と水を運び、薪を準備するために斧までもってくるとき一彼女は自分のためにも彼らのためにも重大な過ちを犯している。神は、妻であり母親である者が家族の奴隷であるようにと計画されたことは決してない。母親は多くの場合、子供たちが家庭の重荷を分かち合うよう教育されていない一方、世話で負担がかかりすぎている。……

けっして子供たちに怠惰を助長したり許したりすべきではない。なぜならそれはまもなく習慣になるからである。……

正しい手順がすべてである。一度にひとつのことをしなさい。そしてそれを立派になし、二番目の働きを始める前に終えてしまいなさい。あなたは起床も、祈りも、食事も、定まった時間を持つべきである。多くの者は、寝床で貴重な時間を無駄にすることが生来の傾向を満足させ、そうしないためには努力を要するために、そうしてしまう。午前中に無駄にした一時間は決して取り戻すことのできない失われた時間である。(教会への証 5巻 180,181)

## 手仕事における健康と尊厳

「働く者は食べることが少なくても多くても、快く眠る。しかし飽き足りるほどの富は、彼に眠ることをゆるさない。」(伝道の書 5:12)

若い男たちは、教師や書記や商人や医者や弁護士などになりたがったり、あるいはその他肉体労働を必要としないような地位を占めたいと望む。若い女性は家事を避けて、他の方面の教育を求める。どんな男でも女でも、まじめな働きによっては、決して品格が下がることはないということを学ぶ必要がある。(教育 256)

有益な労働を勉強と組み合わせる人々は体操で体を動かす必要はない。そして戸外で行う仕事は屋内での労働に比べ十倍以上も健康にとって益となる。職人と農夫は共に体を動かすが、農夫の方が健康的である。自然の元気づける空気と日光だけが体組織の要求に完全に応じる。土を耕す者は、かつて体育館で実践した動きをすべて自分の労働の中に見出す。彼の運動室は広々とした畑である。天の天蓋が屋根であり、しっかりとした地面が床である。ここで彼は鋤で耕し、くわで耕し、蒔き、刈り取る。「干草を作るとき」のように、彼は刈り、熊手で集め、放りあげ、転がし、持ち上げ、積みあげ、投げおろし、踏みつけ、しまい込む。これらのさまざまな動きは体の骨、関節、筋肉、腱、神経を活動させる。彼の力強い動きは十分な深い力の強い吸気と呼気を、肺を広げて、動脈と静脈を躍動しながら暖かい命の流れを送りつつ、血液をきれいにする。自分のすべての習慣に節制をする農夫は、たいてい健康を楽しむ。その働きは彼にとって楽しいものである。彼は食欲があり、よく眠り、そして幸せになれる。活動的な農夫の状態と対照的なのが、身体的な運動をなござりにする学生の状態である。彼は締め切った部屋に座り、机かテーブルの上にかがみこんでいるので、彼の胸は狭くなり、肺は押され、十分に深い呼吸ができず、頭脳は最大限にまで重い負担がかかり、その一方で彼の体はまるで使い道がないかのように活動していない。彼の血液は体組織をゆるやかに流れ、足は冷たく、頭は熱している。このような人がどうやって健康でいられるであろうか。(クリスチャン教育の基礎 73,74)

8月7日

## わたしたちのなすべきことをよく考える

「主の家はこのように荒れはてているのに、あなたがたは、みずから板で張った家に住んでいる時であろうか。それで今、万軍の主はこう言われる、あなたがたは自分のなすべきことをよく考えるがよい。」(ハガイ 1:4,5)

神はご自分の民に第一にして最高の要求をもっておられる。あなたの愛情をこのお方と天の事柄におきなさい。あなたの巻きひげは地上のどのことから切り離されなければならない。……

神聖なご命令に従って、世から分離するとき、それがわたしたちを主に任された働きに適さない者にするのであろうか。分離がわたしたちの周りにいる人々に良いことをするのを妨げるのであろうか。否、わたしたちが天をしっかりとつかめばつかむほど、わたしたちの力はますます有用さを増す。わたしたちは、キリストのうちに宿っている霊がわたしたちのうちに宿ることができるように、型であるお方を研究しなければならない。救い主は世の地位の高い人、尊敬されている人の間では見出されず、安逸や快樂を求めている人々の間で時を過ごされなかった。このお方は、助けを必要としている者、失われ、滅びつつある者を助け、気がくじけている者を引き上げ、捕らわれている者から圧迫のくびきを碎き、苦しむ者を癒し、悩み悲しむ者に同情と慰めの言葉を語るために働かれた。

わたしたちは主人であるお方の模範に従うようにと命じられている。わたしたちがキリストの精神にあずかればあずかるほど、同胞のためにもっとしようと努める。貧しい者を祝福し、失望している者を慰める。滅びゆく魂への愛に満たされ、天の至高者のみ足の後に従うことに喜びを見出す。

神のご要求はわたしたちの前にはっきりと示されている。置かれている質問は「わたしたちはそれに応じるのであろうか。神のみ言葉一世からの分離—に言明されている条件を受け入れるのであろうか」である。これは一瞬のあるいは一日の働きではない。家庭の祭壇でひざまずき、口先だけの申し出によって成し遂げるのではなく、公の奨励や祈りによって成し遂げるのでもない。それは生涯を通じての働きである。わたしたちの神への献身が、生活に織り込まれた生きた原則となり、自己否定と自己犠牲に導かなければならない。それはわたしたちのすべての思想の基礎であり、あらゆる行動の泉でなければならない。これはわたしたちに世を超越させ、その汚染している感化力からわたしたちを分離させる。(ザン・ワーク 1907年2月19日)

## 今日のより大きな必要

「あなたがたは多くまいでも、取入れは少なく、食べても、飽きることはない。飲んでも、満たされない。着ても、暖まらない。賃銀を得ても、これを破れた袋に入れているようなものである。万軍の主はこう言われる、あなたがたは、自分のなすべきことを考えるがよい。山に登り、木を持ってきて主の家を建てよ。そうすればわたしはこれを喜び、かつ栄光のうちに現れると主は言われる。あなたがたは多くを望んだが、見よ、それは少なかった。あなたがたが家に持ってきたとき、わたしはそれを吹き払った。これは何ゆえであるかと、万軍の主は言われる。これはわたしの家が荒れはてているのに、あなたがたは、おのおの自分の家の事だけに、忙しくしている。それゆえ、あなたがたの上の天は露をさし止め、地はその産物をさし止めた。」(ハガイ 1:6-10)

神は、天使たちを、神の真理の使者になさることもおできであった。シナイ山から律法を宣言なさったように、ご自分の声で、みこころを人に知らせることもおできであった。しかし、神は無限の愛と知恵によって、人間を召して、神ご自身の共労者となし、彼らを選んでこの働きをおさせになった。

イスラエルの時代に、十分の一と任意のささげ物とは神の礼拝の儀式を維持するために必要であった。この時代に、神の民は、それ以下のものをささげべきであろうか。……。救いの使命を他の人々に伝えるために、もっと多くのささげ物をして、感謝を表わすべきではないだろうか。福音の事業は、拡大するにつれて、昔よりは多くの資金がその維持のために必要である。それで、十分の一とささげ物の律法は、ヘブル時代におけるよりは、今日、さらにその必要が緊急度を加えた。(人類のあけぼの下巻 163, 164)

最高の賃金をもたらす働きを持っている者に前面に来させ、彼らが受ける賃金に見合う役割を果たさせよう。限られた賃金を得ている者にもこの事柄に関心を持たせよう。あなたができることをし、あなたの什一献金のほかに何かを取っておきなさい。あなたにはこの目的のために箱があるだろうか。あなたの子供たちに、それは自己否定の箱、あなたが得ることができ、実際の必需品のために使う必要のない、どの一円玉もどの十円玉もたくわえる箱であることを説明しなさい。それは主の家のためであり、聖なる自己否定の金銭である。……これを行うことにより、家族一人ひとりが祝福される。(原稿別ス10 巻 126)

8月9日

## 金銭の源と目的

「あなたはあなたの神、主を覚えなければならない。……あなたに富を得る力を与えられるからである。」(申命記 8:18)

もしあなたに浪費の習慣があるなら、あなたの人生からそれらを切り離しなさい。そのような習慣、放縦はあなたを永遠への破産者とする。そして節約、勤勉、まじめはこの世においてすら、あなたとあなたの子供たちにとって豊かな生まれつきの才能よりもっと良い相続分である。

わたしたちは地上では旅人、寄留者、よそ者である。神が抑制するように命じておられる欲望を満足させるために財産を費やさないようにしましょう。むしろ仲間の前に正しい模範を示そう。自分の必要を制限することによって、わたしたちの信仰を適切に表そう。教会が一つとなって立ち上がり、この終わりの時代に真理の満ち満ちた光のなかを歩んでいる者として熱心に働こう。あなたの感化力が、神のご要求の神聖さを魂に印象づけるようにしましょう。

もし神のみ摂理のうちにあなたに富が与えられているとき、有益な労働にたずさわる必要はない、自分には十分あるから、食い飲み、楽しむことができるという考えで、腰を据えてしまってはならない。他の者がみ事業のための収入を得ようと苦勞している間、なまけていてはならない。わたしたちの財産を主のみ働きに投資しなさい。もしあなたが減びつつある者に助けを与えるにあたって、あなたの義務よりなす分が少なければ、あなたの怠惰は有罪となり怒りを招くことを覚えていなさい。

人に富を得る力を与えるのは神であり、このお方は、自己を満足させる財産としてではなく、神ご自身に返す財産として、この能力を与えておられる。この目的をもって財産を得るのは罪ではない。金銭は労働によって得るべきである。どの青年も勤勉の習慣を仕込まれるべきである。もし人が正直に自分の富を得ているなら、聖書は金持ちだということでも人を責めはしない。すべての悪の根は不当に用いられた金銭への利己的な愛着である。もしわたしたちが富を主のものとし、感謝をもって受け取り、感謝をもって与え主にお返しするなら、富は祝福であることがわかる。

しかし、もし富が高価な邸宅や銀行株のために蓄えられるなら、莫大な財産はどんな価値があるのだろうか。無限の神の御子が多のために死なれた一人の魂の救いと比べて、これらはどのような価値があるだろうか。(教会への証 6 卷 452,453)

## わたしたちはどのように高められるか

「ヤコブは誓いを立てて言った、神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」。(創世記 28:20,22)

キリストは福音を広める働きを人に割り当てられた。だがある者が宣布するために出て行く一方で、このお方は他の者に伝道を支え、全地に印刷された真理をまくために、什一と捧げ物を求めるご自分の要求に応えるよう呼びかけておられる。これが人を高める神の方法である。それはまさに彼が必要とする働きである。なぜならそれは彼の心のもっとも深い共感を起こさせ、思いの最高の能力を働かせるからである。

地上のあらゆる良いことは、人への神の愛の表現として、このお方の物惜しみをしないみ手によって、ここに置かれた。貧しい者はこのお方のものであり、宗教上のみ事業はこのお方のものである。神は人の手に財産を置かれたが、それはこのお方の聖なる賜物が、わたしたちの同胞を救うことにおいてわたしたちに任命しておられる働きをすることで、人間の水路を通して流れることができるためである。一人びとりが大いなる分野で自分に任命された働きを持っている。だが、だれも神が人に頼っておられるという考えを受け入れるべきではない。このお方がみ言葉を語られれば、すべての貧困の子を裕福にすることがおできになるのである。一瞬に人類のすべての病気を癒すことがおできになった。まったく牧師を用いず、天使をご自分の真理の大使とすることがおできになるのである。このお方は大空に真理を書きつけ、木々の葉や野の草花にそれを刻み込み、あるいは聞こえる声が天からそれを宣言するようにもおできになる。しかし知恵に富まれる神は、これらの方法をどれもお選びにならなかった。人は人生が自分に祝福となるためには何かすべきことがなければならぬことを、このお方は知っておられた。金や銀は主のものであり、もしそうしようと思えば、それらを天から降らすことがおできになる。しかしそうする代わりに蓄えるためではなく、他の人のためになることに用いるようにと人に財産をゆだねて、ご自分の管理者となさった。主はこのようにして人を地にご自分の祝福を分配する媒体とされた。神は、人がその創造主のように品性において慈悲深く無我の者となり、ついにはこのお方と共に永遠の栄光に満ちた報いにあずかる者となることができるようようにと慈善の組織を計画された。(教会への証 4 巻 472,473)

8月11日

## 良心の呵責を感じる

「あなたがたの神、主がその名を置くために、あなたがたの全部族のうちから選ばれる場所、すなわち主のすまいを尋ね求めて、そこに行き、あなたがたの燔祭と、犠牲と、十分の一と、ささげ物と、誓願の供え物と、自発の供え物および牛、羊のういごをそこに携えて行って」(申命記 12:5,6)

わたしたちが什一を、宗教的な目的のためのユダヤ人の献金の基準として語るとすれば、理解して語っているのではない。主はご自分の要求を最高のものとされ、ほとんどすべてのものにおいて、与え主にお返しするよう要求されることによって、彼らはこのお方を覚えたのであった。彼らは初めの男子の身代金、群れの初子(ういご)、収穫の初穂を受け戻すよう要求された。貧困者のために収穫の畑の隅を残しておくよう要求された。刈り入れ時に手から落ちた物はなんであっても貧しい者のために残し、七年に一度彼らの土地は貧乏な者のために自然に産出することが許された。それから犠牲の捧げ物、愆祭、罪祭、七年ごとのすべての負債の許しがあった。また貧しい者への親切なもてなしと贈り物のための多くの出費もあり、彼らの所有物への課税があった。

定められた期間に、律法の規範を保つために、人々は自分の誓いを忠実に果たしたかどうかの面接を受けた。数少ない良心的な人々は、宗教上の利益と貧しい者の益のために彼らの全収入の約三分の一を神に返した。これらの強制取立ては民の特別な階級からではなく全員からであった。……

このことについて、わたしたちは民として覚醒がなければならない。施しにおける自分たちの義務をなおざりにしたときに、罪悪感を持つ人はわずかしかない。……わたしたちはこの主題に対し、新しいもっと深い罪の自覚を持たなければならない。良心が目覚め、この事柄が真剣な注目を受けなければならない。なぜなら終わりの日に神に報告がなされなければならない、このお方のご要求は決着がつくからである。(教会への証 4 巻 467,468)

## 虚栄を永遠の価値と交換する

「わたしは日の下に一つの悪のあるのを見た。これは人々の上に重い。すなわち神は富と、財産と、誉とを人に与えて、その心に慕うものを、一つも欠けることのないようにされる。しかし神は、その人にこれを持つことを許されないで、他人がこれを持つようになる。これは空である。悪しき病である。」(伝道の書 6:1,2)

多くの者はこの世の宝に夢中になり、神の要求と他に困っている人がいることに無感覚になっている。自分の富は自分の誇のために用いるべきものだと思われ、つぎつぎに家を建て、土地をふやし、贅沢な物で家を満たすのである。しかも、その周囲には悲惨、犯罪、疾病、そして死に遭遇している人がたくさんいる。このように自己奉仕に生きる者は神の性格ではなく、悪魔の性質を自らの中に発達させているのである。

こういう人が福音を必要としており、その目は物質のむなしさから離れ、永遠の富の尊さをながめる方に向けられなければならない。……

裕福でこの世を愛する人、この世を崇拜する人がキリストにひかれていくのは気まぐれな偶然的接触によるのではない。こうした人に近づくのは最も至難な場合が多く、失望したり落胆したりしない、伝道精神に燃えた男女の個人的な努力を払わなければならない。……

上流階級の人の心に触れるためには生活様式や仕事の仕方をその人たちの気むずかしい趣向にあうように変更しなければならないと考える人が多い。裕福そうな外観、りっぱな邸宅、高価な衣服、設備や環境、この世的な習慣に従うこと、流行を追う社会の人為的上品さ、高雅な教養、美しい言葉づかい等は重要なことと思われる。しかし、それは誤りである。こうした世俗的な方法は上流階級の人々の心に触れる神の方法ではない。彼らの心に触れて効果があるものはキリストの福音を矛盾なく無我の精神で示すことである。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 190,191)

わたしたちは入念に自分自身に問うべきである。わたしたちは神の王国にどのような宝を確保しているのだろうか。わたしたちは神に対して富んでいるのだろうか。(教会への証 3 巻 401)

8月13日

## あらゆる状況の中で証する

「いちじくの木は花咲かず、ぶどうの木は実らず、オリブの木の産はむなしくなり、田畑は食物を生ぜず、おりには羊が絶え、牛舎には牛がいなくなる。しかし、わたしは主によって楽しみ、わが救の神によって喜ぶ。」(ハバクク 3:17,18)

あなたは真理をみとめ、神の律法の主張を理解している。あなたは故意に罪を犯す者は命に入ることはないと知っており、なおかつ律法が世で無効にされているのを見る。あなたの義務は何であろうか。あなたは「わたしにとって何が都合が良いであろうか。何がふさわしいであろうか」と問うべきではなく、「魂を救うためにわたしは何ができるであろうか」と問うべきである。

わたしたちの前には大いなる働きがある。世は警告を受けなければならない。この働きは、わたしたちが自分のものにしていくようにと神が委ねてこられたタラントをすべて働かせるよう求める。このお方は、わたしたちが他の人の思いに感化力を働かせることができるようにと、わたしたちに能力を与えておられる。わたしたちはペンに、印刷に、声に、財布に、そして聖化された魂の愛情にタラントを持っている。これらのタラントはみな主のものである。このお方はそれらをわたしたちに貸し与えておられ、それらを用いるに当たって、世に対するわたしたちの義務を忠実に遂行する責任を問われる。わたしたちはイエスの許に非常に近づくことができ、このお方と交わり、自分自身の魂に休息と平安を見出し、他の人々に真理の聖潔の美を示すことができる。

わたしたちは自分の信仰と勇気をテストするために闘争にあうであろうが、もしわたしたちが、イエスが与えたいと思っておられる恵みによって勝利するなら、それらはわたしたちを強くする。しかしわたしたちは信じなければならず、疑わないでみ約束をしっかりと掴まなければならない。それらは終わりの時代の危機と試練の間でさえ、豊かに富んだものである。……わたしたちが信仰を働かせ、信仰を語り、信仰の働きをするなら、神のみ約束はわたしたちに実証される。そしてわたしたちが自分の信仰の告白に一致して歩むとき、わたしたちも他の人々に慎重に歩むよう教えているのである。

闇を選んではならない。不信という冷たく暗い洞窟から出て、二階の座敷に入りなさい。そこであなたは神の愛の日光に浴することができ、イエスのご臨在のうちに平安と休息を楽しむことができる。(福音宣伝者 434,435)

## 神の奥義の管理者

「このようなわけだから、人はわたしたちを、キリストに仕える者、神の奥義を管理している者と見るがよい。」(コリント第一 4:1)

神は〔第三天使の〕メッセージが閉じる時、あるいは猶予期間が終わる時をわたしたちに明らかにしてはおられない。明らかにされたことをわたしたちは自分自身と子供たちのために受け入れる。しかし、全能者の会議において秘密にされてきたことを知ろうとしないようにしよう。見張り、働き、待つこと、そして滅びようとしている人々の魂のために毎瞬間働くことはわたしたちの義務である。わたしたちは絶えずイエスのみ足の後に従って歩み、このお方の方針に従って働き、神の多種にわたる恵みの良き管理人としてこのお方の賜物を分配し続けるべきである。サタンはこの時代のためのすばらしい真理を無効にするために、イエスから毎日学んでいない者がいれば、自分自身の作りだした特別なメッセージを与えようと待ち構えている。

わたしのところに、恩恵期間が閉じる時について何か特別な光をもっているかを尋ねる手紙を受け取った。わたしが担うべきメッセージはただこれだけである、とわたしは答える。すなわち、今は昼の間に働くべき時だということ、なぜなら、だれも働くことのできない夜が来るからである。いま、まさに今こそ、わたしたちが見張り、働き、待つべき時である。主のみ言葉は万物の終わりが間近であることを明らかにしている。(セレクトド・メッセージ 1 巻 191)

わたしたちが担っているメッセージは、宣布することを畏れる必要のあるようなものではない。その擁護者は、それを覆おうとしたり、その起源や目的を隠そうとしたりすべきではない。神に対して厳粛な誓いをした者として、またキリストの使命者、恵みの奥義の管理人として任命を受けてきた者として、わたしたちは神の勧告全体を忠実に宣言する義務の下にいる。

わたしたちは、自分たちを世から分離させ、今日あるを得させてきた特別な真理を、少しでも目立たないようにすべきではない。なぜなら、それらは永遠の利益に満ちているからである。神はわたしたちに今起こりつつある事柄に関して光を与えてくれた。そして筆舌をもってわたしたちは世に真理を宣布すべきである。しかし、わたしたちの言葉を実りあるものとするのは、ただ魂のうちにあるキリストの命であり、聖霊によって与えられる活動的な愛の原則だけである。(福音宣伝者 288)

8月15日

## 神の金銭の管理者

「この場合、管理者に要求されているのは、忠実であることである。」(コリント第一 4:2)

感謝の愛に動かされた、全き献身と慈善は、最も小さな捧げ物や、自発的な犠牲に、神聖な香を与え、その賜物を価をつけられないほど価値のあるものとする。……

〔キリストは〕わたしたちを自発的な僕としてご自分に結びつけるために、ご自分の苦難の命と流された血のうちにわたしたちに報いを提供された。わたしたちの持っているあらゆる良いものはすべて主から貸し与えられたものである。このお方はわたしたちを管理者とされた。信仰と愛のうちに差し出されたわたしたちの最も小さな捧げ物、もっともつつましい奉仕は、魂を主人の奉仕に勝ち取り、このお方の栄光を促進するために捧げられた賜物となることができる。キリストの王国の利益と繁栄が、他のすべての考慮すべきことに勝る最高のものとなるべきである。自分たちの楽しみや利己的な関心を自分の生活の最高の目的とする者は、忠実な管理者ではない。

他の人々に善を行うために自己を否定し、自分自身と自分の持っている物をすべてキリストの奉仕にお捧げする人々は、利己的な人が求めている幸福が虚しいことを悟る。わたしたちの救い主は、「あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」と言われた(ルカ 14:33)。愛は「自分の利益を求めない」(コリント第一 13:5)。これはキリストの生涯を特徴づけた無私の愛と慈善の実である。わたしたちの心のうちにある神の律法は、わたしたち自身の利益を、高くて永遠の考慮すべき事柄に服従させる。わたしたちはキリストにまず神の王国と神の義を求めるように命じられている。これがわたしたちの第一にして最高の義務である。わたしたちの主人は、ご自分の僕たちに地上に宝を蓄えてはならないとはっきり警告された。なぜなら、そうすることによって彼らの心が天の事柄よりも地上のことにあるからである。ここで、多くの哀れな魂が信仰の破船にあった。彼らはわたしたちの主の表現されたご命令に真っ向から反対の道へ行き、金銭への愛着が自分たちの生活の支配的な情欲となることを許してしまった。彼らは財産を獲得する努力において不節制であった。……

クリスチャンは自分たちが主人の僕であることを忘れている。彼ら自身も、彼らの時間も、彼らの持っているすべてのものは、このお方に属するのである。(教会への証 3 巻 397,398)

## 与えることはより大きな喜びをもたらす

「あなたがた自身が知っているとおり、わたしのこの両手は、自分の生活のためにも、また一緒にいた人たちのためにも、働いてきたのだ。わたしは、あなたがたもこのように働いて、弱い者を助けなければならないこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教え示したのである。」(使徒行伝 20:34, 35)

もし資金を持っている人が自分たちの費す一ドル一ドルに対して神への報告責任があることを自覚するなら、彼らの必要だと思っていた物はずっと減ることであろう。もし良心が生きているならば、それは食欲や誇りや虚栄や娯楽への愛着などに充当された不要な出費を証し、主のみ事業に捧げられるべきであった主の金銭を浪費したことを報告することであろう。(教会への証 3 卷 401)

キリストの十字架の原則は、信じるすべての人を、自己を否定し、他の人々に光を与え、光を広めるために自分たちの資金を捧げるという重い義務のもとへ連れて行く。もし、彼らが天とのつながりのうちにいるならば、彼らは御使たちとの調和のうちに働きに携わるのである。

世俗の原則は、この世の朽ちるものをできる限り手に入れることである。儲ける利己的な愛が、彼らの生活を支配している原則である。しかし、もつとも純潔な喜びは、富の中にも、いつも貪欲が切望しているところにでもなく、満ち足りた心が支配しているところ、また自己犠牲的な愛が原則として支配しているところに見出されるのである。放縦にふけて自分の人生を送り、いつも不平に満ちた心をもっている人々が何千という。彼らは利己心の犠牲者であり、自分たちの思いを放縦で満足させようとむなしい努力をして不満を抱いている。しかし、不幸が彼らの表情そのものに刻印されており、彼らの道は良い行いの実りがないために、その背後は砂漠なのである。

キリストの愛がわたしたちの心を占め、わたしたちの生活を支配するのに比例して、貪欲、利己心、安逸を愛する心は克服され、自分たちがその僕であると主張しているキリストの御旨を行うことがわたしたちの喜びとなる。そのときわたしたちの幸福は、キリストの愛によって促された自分たちの無私の行いに比例するようになる。(教会への証 3 卷 382)

8月17日

## 自己否定の模範を生きる

「兄弟たちよ。あなたがたはわたしたちの労苦と努力とを記憶していることであろう。すなわち、あなたがたのだれにも負担をかけまいと思って、日夜はたらきながら、あなたがたに神の福音を宣べ伝えた。」(テサロニケ第一 2:9)

パウロ自身の生活が彼の宣べ伝える真理を例証していたため、彼の説教には説得力があった。(患難から栄光へ下巻 209)

神はあなたが起き上がって、障害物を乗り越える力を持つように望んでおられる。簡単に失望してはならない。もし必要であれば、使徒パウロがしたように、キリストがそのために死なれた魂のために深い関心を感じて弱さを忘れ、疲労の中でも、骨折りの中でも、見張りつつ働きなさい。(教会への証 2巻 628)

神の御子のへりくだりの生涯に注目しなさい。このお方は「悲しみの人で、病を知っていた」(イザヤ 53:3)。このお方の屈辱、ゲッセマネでの苦悩をながめて、何が自己否定であるかを学びなさい。わたしたちは欠乏に苦しんでいるであろうか。天の大君であられるキリストも苦しまれたのである。しかし、このお方の貧しさはわたしたちのためであった。わたしたちは富む者のうちに地位を占めているであろうか。このお方もそうであった。しかし、このお方はわたしたちのために貧しくなることに同意された。それはわたしたちがこのお方の貧しさを通して富む者となるためであった。キリストのうちに、わたしたちには具現化された自己否定がある。このお方の犠牲はただ単に天の王宮を去られたことにあるのでも、悪人たちに犯罪者として裁判にかけられて有罪を宣告されたことにあるのでも、また悪党として死に渡されたことにあるのでもなく、世の罪の重さを担われたことにある。キリストの生涯は、わたしたちの無関心と冷たさを譴責する。わたしたちは、終わりの時、すなわちサタンが自分の時が短いことを知って、大いなる怒りをもって地に下ってきた時に近い。彼は滅びる人々のうちにあらゆる不義の欺瞞をもって働いている。わたしたちの偉大な指導者によって、戦いを精力的に前進させるよう、それはわたしたちの手にまかされている。わたしたちはもし目覚めていればできることを20分の1もしていない。安逸を愛し、わたしたちの救い主がその生涯に模範を残された自己否定の精神に欠けているがゆえに、働きが遅れている。(教会への証 3巻 407)

もし不信者たちがわたしたちの働きと生涯に、滅びようとしている魂を救うための献身と自己否定を見るならば、わたしたちの公言している真理の現実性を印象づけられる。受ける人を聖化する真理は、彼らにその印象を残すのである。(レビュー・アンド・ハラルド 1909年9月16日)

## 盗んではならない！

「盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをなさい。」(エペソ 4:28)

悩みの時はわたしたちの目の前にある。そのときには厳しい欠乏のために、神の民は自己を否定し、命を支えるのに足りる分だけを食べることが要求される。しかし、神はその時のために準備させてくださる。その恐るべき時に、わたしたちの欠乏は、神がご自分の強める力を与え、ご自分の民を支えてくださるこのお方の好機となる。しかし、今は神は彼らが自らの手で働くことを要求しておられる。それは良いことであって、神が彼らを繁栄させられるときに蓄えをなし、真理のみ事業を支えるために自分たちの分を果たすようにと要求しておられる。(教会への証 1 巻 206)

ある人々は、外国に伝道者を送り、真理を出版し、それを世界中に秋の木の葉のようにまくために用いられる金銭を求める呼びかけに耳をふさぐ。そのような人々は、あなたに自分たちが死ぬときには惜しみなく捧げるよう取り計らったと告げることによって自分たちの貪欲の言い訳をする。彼らは自分たちの遺言の中で神のみ事業を検討した。そこで、彼らは什一と献金において神から盗み、貪欲の生涯を生き、そして自分たちの遺言の中で神が彼らに貸し与えられたものからわずかな一部を神にお返し、その一方真理には何の関心もない親戚には非常に大きな割合が充てられるのである。これは最悪な種類の泥棒である。彼らは神の当然の権利であるものを、自分たちの一生を通じてばかりでなく、死においてすら、神から盗むのである。(教会への証 4 巻 479, 480)

\_\_\_教会には、クリスチャンの堅実さという恵みを培い、信仰の人になるために成長しているべき青年たちがいる。彼らは堅固で、ゆるぎなく、真理に根ざし、また確立する者となるべきである。教会は彼らが与えるようにと神が計画された助けを、まさに必要としている。このお方のみ名を公言する人々は、自分たちの力をこのお方に十分に完全にお捧げしてこなかった。かえって彼らはある程度サタンの奉仕へそれらを譲り渡してきた。このような人々はこれまで、また今もなお神から盗んでいるのである。タラントを委託された不忠実な管理人のように、彼らは神の賜物を世において隠してきた。(教会への証 5 巻 115, 116)

わたしたちは一点一画においても神から盗んでいないことを確認しよう。なぜなら、多くのことがこの問題にかかわっているからである。(教会への証 9 巻 246)

8月19日

## 与えるように召されている管理人

「あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。」(ペテロ第一 4:10)

すべてのものは神のものである。人はこのお方のご要求を無視するかもしれない。このお方が彼らに祝福を豊かにお与えになる一方で、彼らはこのお方の賜物を自分自身の利己的な満足のために用いるかもしれない。しかし、彼らは自分たちの管理職のために会計報告を出すよう要求されることになる。

管理人は自らの利害を自分の主人と同一にする。彼は管理人の責任を受け入れる。そして、自分の主人に代わって行動し、もし自分の主人が取りしきっていたならば、なすはずのすることをするのである。(教会への証 9巻 246)

主はご自分に従う者たちが、自分たちの財産を自分で施すことのできるうちにそうするよう望んでおられる。ある者は、「わたしたちは実際に自分自身のものだと思っているものを何もかも手放さなければならないのか」と尋ねるかもしれない。わたしたちは、今そうするよう要求されないかもしれないが、キリストのためにそうすることを望んでいなければならない。このお方のみ事業の前進のために資金が必要とされているときには、自分たちの所有物を惜しみなく用いることにより、それらが絶対的に主のものであることを認めなければならない。(教会への証 4巻 479)

もし彼らが、財産に執着し、自分たちの義務について主に尋ねることをしないならば、主は彼らに義務を知らされない。そして、彼らは財産を持っていることを許される。そして、悩みの時に、それは彼らを押しつぶす山のように彼らの前にあらわれるだろう。そして彼らは、それを処分しようとするのであるが、もうそれはできないことをわたしは見た。わたしはある人々が次のように嘆くのを聞いた。「働きは衰微していた。神の民は真理に飢えていた。それなのに、われわれはその欠乏を満たそうとしなかった。今、われわれの財産は役に立たない。ああ、われわれはそれを手放して、天に宝を蓄えておいたらよかったのに。」わたしは、犠牲が増加せず減っていき、燃えつきるのを見た。また、神はすべての神の民が同じ時に、財産を処分することを望まれないのを見た。もし彼らが喜んで聞き従うことを望むならば、神は必要に応じて、いつ、またどれだけ売るべきかを示してくださるのである。過去において、再臨運動を支えるために、財産を処分するように要求された人々があつた。またその反面、必要な時が来るまで財産を持っていることを許された人々もある。働きが必要とする時が来るならば、売ることが彼らの義務なのである。(初代文集 128,129)

## わたしたちの主にお会いする準備をする

「そこで主が言われた、主人が、召使たちの上に立てて、時に応じて定め  
の食事をそなえさせる忠実な思慮深い家令は、いったいどれであろう。主人が帰っ  
てきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。」(ルカ  
12:42, 43)

主は、心が世の思い煩いに満たされることの危険をわたしに示された。わたし  
はある人々が他の刺激的な本を読んで、現代の真理と聖書を愛する心から引き  
離されていくのを見た。また、他の人々は、飲食や衣服のことで心が悩みと苦勞  
に満たされていた。ある人々は、主が来られるのははるか遠い先のことだと思っ  
ている。時は、彼らが期待したよりは数年長く続いた。そのために彼らは、時が  
さらに数年続くものと考えた。このようにして、彼らの心は、現代の真理から引き  
離されて世に従っていく。わたしはこうしたことのなかに大きな危険を見た。もし  
われわれの心が他のことで満ちているならば、現代の真理は心からしめ出されて、  
額には生ける神の印を押す場所がない。イエスが至聖所におられる時は、ほと  
んど終了し、時は、あとわずかしか続き得ないことをわたしは見た。われわれの  
空いた時は、聖書の研究のために費やさなければならない。この聖書が、最後  
の日にわれわれを裁くのである。

愛する兄弟姉妹がた、神の戒めとイエス・キリストのあかしを常に心に抱いて  
いよう。そして、それに世の思いと煩いを閉め出していただこう。寝る時も起きる  
時もこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行  
動をとうろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四  
方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時  
である。(初代文集 129,130)

牧師たちは眠っている。信徒たちは眠っている。そして世は罪のうちに滅びつ  
つある。神がご自分の民を助けて、永遠の世界の境界線にいる男女として目覚め  
させ、歩ませ、働かせてくださるように。まもなく恐るべき驚きが世の住民の上  
におとずれる。突然、力と大いなる栄光をもって、キリストが来られる。そのとき、  
このお方にお会いする準備をする時間はない。今こそ、わたしたちにとって警告  
のメッセージを与えるべき時である。(教会への証 8 巻 37)

8月21日

## 責任に目覚める

「あなたの会計報告を出しなさい。」(ルカ 16:2)

恩恵期間は今にも閉じようとしている。天ではまもなく「事はすでになつた」との命令が出される。……敵はすべての魂に対して命のゲームをしている。彼はわたしたちからすべての霊的な性質のものを取り除くために働き、キリストの尊い恵みの代わりに、わたしたちの心に肉の性質の邪悪な特質—憎しみ、邪推、嫉妬、世への愛着、自己愛、娯楽への愛着、そして持ち物の誇り—をつめこもうとしている。わたしたちは滅びる人々のうちにあらゆる不義の欺瞞をもって働き、侵入する敵に対して防壁を築く必要がある。なぜなら、わたしたちが見張り、祈っていないければ、これらの悪が心に入り、良いものをすべて締め出してしまうからである。

神のみ言葉を信じると公言する多くの人々は、敵の欺瞞的な働きを理解していないように見える。彼らは時の終りが近いことを悟らない。しかし、サタンはそれを知っている。そして人が眠っている間に、彼は働く。肉の欲、目の欲、持ち物の誇りが、男女を支配している。サタンは神の民の間でさえ働き、不一致を生じさせている。利己心、墮落、またあらゆる種類の悪が心をしっかりとらえている。多くの人によって尊い神のみ言葉が無視されている。小説や物語が注意をうばい、思いを魅了している。想像力をかきたてるものは熱心にむさぼるが、その一方神のみ言葉はわきにおかれている。ユダヤ国家がキリストを拒んで、強盗を自分たちに与え、命の君を十字架につけるよう要求したのは、彼らが神のみ言葉を見過ごしたからであった。そしてこの終りの時代に、自称クリスチャンは、同じ罪を犯している。彼らは自分の思いがほとんど重要性のない事柄に没頭し、その一方永遠の真理をなおざりにすることを許すがゆえに、秤で測られて、その量が足りないことを発見されるのである。高め、聖化し、精練し、人を不死の最後の一触れにふさわしいものとする神の真理は、重要性の劣る事柄のためにわきにおかれている。ああ、この盲目が過ぎ去り、サタンが男女のあいだで成し遂げつつある働きを、当人たちが悟ればよいのだが!(ビュ・アツド・ハラド 1900年1月2日)

## 最終試験のための教育

「多くの書を作れば際限がない。多く学べばからだが疲れる。事の帰する所は、すべて言われた。すなわち、神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである。」(伝道の書 12:12-14)

各時代を通じて、人間の好奇心は、人が知識の木を探し求めるように導いてきた。そしてしばしば人が自分は今よりも重要な実を摘み取っているのだと思っているとき、まさに探求していたときのソロモンのように、彼らは自分たちのために神の都の門を開く聖潔の科学と比較するとき、それがことごとくむなしく無に等しいことを見出す。学校教育のために重要不可欠だと思われてきた多くの書物には、誤った原則が含まれており、もしそれが実生活に持ち込まれるなら、生徒たちを誤った道へ導き、神への献身からそらすことになる。……

人間の野心は、人に自己称揚と主権をもたらすような種類の知識を探し求めてきた。こうしてアダムとエバの上に、神の抑制が真二つに裂けるまで、サタンによって働きがなされ、神が彼らに与えることを許されなかった知識—不法の結果の知識—を持つ者となるように、偽りの教師の下での彼らの教育が始まった。そのとき以来、人の子らは悪の実際的な知識を持つようになった。しかし、キリストはご自分が彼らのために、その葉が国民をいやす命の木を植えられたことを示すために世に來られた。このお方は人のうちに神の道徳のみかたちを回復し、わたしたちの精神力を高め、高尚にするために來られたのである。(ユース・インストラクター - 1898年11月27日)

生徒たちに最後の大きな試験に耐える準備をさせ、国内外での伝道の働きにふさわしい者とするために最も必要とされている研究の要点そのものが、なおざりにされている。今必要とされている教育は、すべての機能を神の御霊の支配下におくことを生徒たちに教えることによって、彼らを実際的な伝道の働きのためにふさわしいものとする教育である。最高の価値を持つ研究書は、教師の中の教師であられるキリストの教えを記した書物である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1907年11月7日)

8月23日

## だまされやすい者となってはならない

「まちがってはいけない。悪い交わりは、良いならわしをそこなう。」(コリント第一 15:33)

家庭で宗教的な教えの恩恵を受けてきて、社会の悪徳を知らない生徒たちは、思いがより劣った型にはめられ、精神的教養や宗教的訓練のための利点が非常に限られてきた者たちと、しばしば最も親しくなる。そして彼らはこの種類の社会に混じることによって、また高める代わりにより低くし、道徳心を墮落させる傾向のある雰囲気を呼吸することによって、自分たちの仲間と同じ低い水準にまで沈む危険性がある。生徒の大部分の楽しみは、自分たちのひまな時間に、楽しく過ごすことである。そして無垢で純潔な家庭を出た者たちの非常に多くが、学校での交わりによって墮落し始める。(教会への証 3 巻 155)

あなたの息子たちは無力な赤ん坊のときとまったく同様に、少年時代も青年の時も母親を必要としている。あなたの娘たちもまた愛情深いクリスチャンの母親の油断のない保護を必要としている。彼らが不適切な交わりによって墮落させられるままにほうっておいてはならない。子供たちは教えられ、安全な道に導かれ、悪から守られ、親切によって勝ち取られ、勤勉な訓練によって善行のうちに確立される必要がある。救い主はすべての魂のうちに、それが帯びる神のみかたちのゆえに、価値と尊厳をお認めになる。このお方はあなたの子らが永遠の命という賜物を得ることができるために死なれたのである。このお方は彼らを神聖な同情をもってご覧になる。彼らの魂は永遠の命へと救われることができる。そして彼らは他の人の魂とまったく同様に尊いのである。あなたは自分自身の戸の前に面倒を見るべき小さな一角の土地がある。そして神はあなたの手任されたこの働きの責任を問われる。熱心な祈りと研究を通して、あなたは自分の家庭で子供たちのさまざまな気質を学び、注意深く彼らの態度に気づいて、賢明になることができる。あなたは家庭で小さな学校を持ち、そこで自分が教師になることができる。もしあなたが主の方法を理解し、それを守るための知恵を求めらば、このお方は知恵と恵みを与えてくださる。(ビュー・アンド・ハルド 1891 年 9 月 15 日)

## 悪い本は火に

「それから、魔術を行っていた多くの者が、魔術の本を持ち出してきては、みんなの前で焼き捨てた。その値段を総計したところ、銀五万にも上ることがわかった。」  
(使徒行伝 19:19)

〔エペソの人々は〕共に魔術の本、すなわちアルテミスの魔術の象徴や、その魔術の秘密を記した高価な本を持ってきて、それらをみんなの前で焼き捨てた。このように払われた犠牲を見積もったところ、銀五万、およそ一万ドルに等しいことがわかった。

これらのエペソ人の改心は、いつでも本物の改心に続く結果を伴っていた。自分たちの魔術の本が偽りであり、有害であることを悟ったとき、彼らはそれらを売って、他の人々の道に誘惑を置くようなことをしなくなかった。彼らは個人的に膨大な犠牲を払って、ただちに占いの記録を焼き捨てた。真理の力は、人間の偏見、好きな楽しみごと、そして金銭への愛着に打ち勝った。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年5月18日)

親愛なる青年方よ、物語の載っている雑誌を読むのを止めなさい。すべての小説を捨てなさい。パウロの時代、エペソで改心した人々は自分たちの魔術の本を焼き捨てたのである。わたしたちは自分たちの家からすべての物語雑誌や愚かしい写真—サタンに由来する象徴—の載った出版物を一掃するのがよい。青年たちは自分たちの思いをこのようなもので汚すわけにはいかない。(レビュー・アンド・ワールド 1906年7月19日)

一つ一つの家庭におけるすべての安っぽいくずのような読み物が焼き捨てられればよいのに！わが親愛なる若い友人がたよ、あなたを誘惑して作り話を読みふけらせるようなものはすべて焼き捨てることほど、良い結果をもたらすことはない。(カナダ・エニオン・メッセンジャー 1907年9月3日)

キリストの弟子たちは魔術の本を焼き捨てたであろうか。彼らは自分たちの原則と生活習慣に決定的な変化をもたらしたであろうか。彼らは自ら世の魔力より分離したであろうか。……神は禁じられた道を歩むことを選ぶ人々を守るようにとご自分の御使たちに責任をお与えになることはない。……

わたしたちはキリストに従う人々に尋ねたい、「あなたは魔術の本を焼き捨てましたか」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年5月18日)

8月25日

## 不信者の科学を遠ざける

「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの『知識』による反対論とを避けなさい。ある人々はそれに熱中して、信仰からそれてしまったのである。」(テモテ第一 6:20, 21)

わたしたちは絶えず地質学やそのほか誤って科学と呼ばれているが、真理の片鱗すらない分野にかかわる詭弁に対して防御する必要がある。(レビュー・アンド・ヘラルド 1898年3月1日)

神は人間の知力を啓発し、芸術や科学の発見において世界に光の洪水を注いでこられた。しかし、これらを単に人間の見解からしか見ない人々は最も確実に誤った結論へいたる。誤謬や懐疑論や不信心のとげは、哲学や科学という衣で覆われることによって隠される。サタンは生ける神から魂を勝ち取るこの巧妙なやり方を考案してきた。(健やかな生活 293)

高尚な資質を持ち、神がご自分のみ事業においてお用いになることのできるはずの人が大勢いる。しかし、サタンの惑わしの力が呪文のように彼らの上に投げかけられてきた。誤って科学と称されているものが彼らを真の宗教の基礎そのものから論じそらせてしまう。彼らの感覚はあまりにも混乱させられ、御霊と神のみ言葉の証に疑問をさしはさむのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1896年12月29日)

日々は大いなる困惑と混乱が起こる時に急速に近づいている。サタンは御使の衣をまとめて、可能であれば選民をも惑わそうとする。多くの神々や主々が起ころであろう。あらゆる教理の風が吹くであろう。「偽りの知識(科学)による反対論」に最高の敬意を払ってきた人々はそのとき指導者とはならない。知性や才能やタラントに信頼をおいてきた人々はそのとき一般大衆の頭として立つことはない。彼らは光と歩調を合わせなかった。自ら不忠実であることを証明してきた人々が、そのときに群れを任されることはない。最後の厳粛な働きにおいて、偉大な人物はほとんど携わることがない。彼らは自己満足で神から独立しているため、神が彼らをお用いになることができないのである。主は忠実な僕を持っておられる。彼らはふるいとテストの時に、見られるようになる。今は隠されているが、バアルにひざをかかめてこなかった尊い者たちがいる。(教会への証 5巻 80, 81)

## どの知恵をわたしは優先するか

「だれも自分を欺いてはならない。もしあなたがたのうち、自分がこの世の知者だと思ふ人がいるなら、その人は知者になるために愚かになるがよい。なぜなら、この世の知恵は、神の前では愚かなものだからである。神は、『知者たちをその悪知恵によって捕える』と書いてあり、更にまた、『主は、知者たちの論議のむなしいことをご存じである』と書いてある。」(コリント第一 3:18-20)

主の民だと公言する人々によって世の知恵があまりにも高く評価され、上よりの知恵はあまりにも求められていない。人々はクリスチャンの教理の知識は持っているかもしれないが、なおクリスチャン経験はほとんど理解していない。多くの人々は世俗の事柄においては鋭敏で、かしく、敏速であるが、その一方神の奉仕においては、ほとんど関心も機転も精力も表さない。彼らは自分たちの鋭さや利口さを、サタンの考案物を見抜くために見張り、いかに敵に勝つことができるかを研究するために働かせない。彼らは神のみ事業を前進させるために賢明な計画を立て、最も熱心で均整の取れた努力を払うために自分たちのあらゆる力を結集しない。世俗的な現世のことには働かせる知恵が、靈的で永遠の事柄にはほとんど捧げられることがない。この方法によって、能力のある人は自分たちが靈的であるよりはむしろ肉の証拠を示しているのである。

すべての人は、職業が何であれ、神のみ事業を第一の関心事とすべきである。彼は主の働きを前進させるために単に自分のタラントを働かせるばかりでなく、自分の能力をこの目的のために培うべきである。多くの人々は、自分が世の中で成功した働き人になれるように商売や職業の知識習得のために数ヶ月あるいは数年をつぎこむ。それでいながら、彼は主のぶどう畑において、成功をおさめる働き人にするはずのこれらのタラントを培うために特別な努力を払わないのである。彼は自分の力をゆがめ、自分のタラントを誤用してきた。彼は自分が天の主人を軽蔑していることを示してきた。これは神の民だと公言している者の大きな罪である。彼らは自分自身に仕え、世に仕えている。彼らは利口で成功を納めた資産家という名を持っているかもしれないが、神がその奉仕のために彼らにお与えになったタラントを用いることによって増し加えることをなおざりにした。世俗の機転は、働かせることによって強くなっているが、靈性は不活動を通して弱くなっている。(ビュー・アンド・ヘラルド 1884年1月1日)

8月27日

## どのように建てているか用心する

「どういうふう建てるか、それぞれ気をつけるがよい。」(コリント第一 3:10)

あなたがたはどのように建てているかに関して神に会計報告を出さなければならない。なぜなら、あなたがたが自分の働きに成功することができるよう、すべての備えがなされてきたからである。ご自分の神聖な指でユダヤの境界線を引かれたお方、宮がどこに建つべきか正確な場所を指定されたお方、ユダヤ人の教会と聖所の奉仕のために計画を実行されたお方が、ご自分の戒めを守りご自分の民、すなわちご自分の選ばれた民を、偶然的な経験や事故に、また闇の中でつまづくがままに放っておかれるであろうか。このお方が最も尊い光を委ねられた人々、すなわち第三天使のメッセージを委任された人々が、いにしへの民ほどこのお方のみ摂理の導きを持たないということがあるであろうか。

ああ、教会が目覚めるならば!ああ、この時代のための真理を公言するすべての人々が真理を通して聖化され、神のご計画を認めて、世界に光を伝えるという自分たちの個々の責任を理解することができるならば。真理の種は新しい創造へと芽を出し、魂は神へと改心させられる。

何をなし得るかを面前にするとき、教会は考え続けるのであろうか、あるいは神のあわれみ深いみ摂理を通して自分たちに与えられている責任と榮譽を感じて、自分たちが受け継いだ信任と、現代の光の有利性を集め、今わたしたちの前にあらわれている緊急時に立ち上がる必要性を感じてあろうか。世界はわたしたちが想像する以上に、大きな関心をもってわたしたちの動きを見ている。(ビュー・アンド・ワールド 1893年2月21日)

あなたがたがどのように建てているか、どのような材料を建物に持ち込んでいくかに注意しなさい。あなたがたが今形成している品性が、永遠に続くのである。

イエスにあなたの思い、あなたの心、あなたの愛情を所有していただき、家庭の義務、自己否定の小さな行為、親切な行いを良心的に行いながら、短い時を勤勉に用いつつ、小さな罪に対しては注意深く見張り、小さな祝福には感謝の心を持ち続けて、キリストが働かれたように働きなさい。(ユース・インストラクター 1886年11月3日)

## 品性の建造物を積み上げる

「この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、または、わらを用いて建てるならば、それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に現れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事とどんなものであるかを、ためすであろう。」(コリント第一 3:12,13)

代価を数えて、永遠のために建てたいと望む人々は、自分たちの建物に良い材料を持ち込まなければならない。もし彼らが腐った材木を受け入れるなら、すなわちもし彼らが品性の欠陥に満足しているなら、建物は崩壊の運命にある。すべての者は、自分たちがどのように建てているか注意しよう。誘惑の嵐が、建物に押し寄せるであろう。そして堅く忠実に建築されていなければ、それはテストに耐えないのである。……

わたしたちはすべての人の心を恐れさせるべき危険な時代に生存している。多くの人々の思いが懐疑論の当惑を通して迷っているのを見る。この原因は、無知、誇り、そして欠点のある品性である。謙遜は墮落した人類の学ぶのが難しい教訓である。神と罪人、聖なる律法の違反、そしてキリストを通しての許しに関する主題について明らかにされた真理に反対して立ち上がる何かが、人間の心の中にある。

わが兄弟姉妹方、老若の方々、あなたに暇な時間があるとき、聖書を開いて、その尊い真理を思いに蓄えなさい。働きに携わるとき、思いを守って、神にとどまるようにし、少なく話し、多く瞑想しなさい。次のことを覚えていなさい、「あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう」(マタイ 12:36)。あなたの言葉を選びなさい。これが魂の敵に対して戸を閉じることになる。祈りをもってあなたの一日に入り、神の御目の前にいるかのように働きなさい。……もしあなたがよい勧告に背を向けて、クリスチャンだと公言していながら、宗教的なことに思いを向けさせない傾向があると疑わしく思うような人々と交わることを選ぶなら、あなたはまもなく彼らと似た者となる。(教会への証 4 巻 588, 589)

日ごとにわたしたちは改心する必要性を悟る必要がある。キリストと世の間のバランスを取ろうとして区別の境界線上に立つてはならない。主に贖われた人々のためにしかれた道にとどまっていなさい。(ユース・インストラクター 1900 年 10 月 25 日)

8月29日

## 目ざめて熱心になる

「目ざめて身を正し、罪を犯さないようにしなさい。あなたがたのうちには、神について無知な人々がいる。あなたがたをはずかしめるために、わたしはこう言うのだ。」(コリント第一 15:34)

惜しげもなく多くの信者によって不必要なもののために費やされた金銭は、今にも減じようとしている魂を勝ち取る働きに与えられるべきである。わたしたちの民が神と共に働く共労者となる必要性を感じるべき時である。自己否定と自己犠牲は、この時代に非常にふさわしい。(ビュー・アズ・ハルト 1909年9月16日)

ノックスがスコットランドのために神のみ前に嘆願したときに持っていた関心を持っていくなら、わたしたちは成功する。彼は、「主よ、わたしにスコットランドをください、さもなければわたしは死にます」と叫んだ。そしてわたしたちが働きに取りかかるときに、神と格闘し、「わたしは魂を得なければなりません。決してこの苦闘をやめません」と言うならば、神がわたしたちの努力を、恩寵をもって見て下さることを見出すのである。このお方はあなたの伝道の結果としてご自分が魂をお与えになっても、それであなたが誇ったり、得意になったりしないのをご覧になる。あなたは一瞬たりともだれか他の人がこれらの魂のための功績を得ると感じるような立場にいることはない。そうではなく、あなたは彼らが救われることを神に非常に感謝し、日夜このお方への賛美があなたの心とあなたの唇にあるのである。神がご自分の働きにおいて強力な器となさるのはこのような人である。わたしはこれらの点を真剣に感じる。

彼らと交わってきた人々、どのように神のみ働きをなすか学ぼうとしている人々は、これらの働き人たちに自分たちがどのような教育を与えているかについて、自分たちの魂にたえず重荷を感じるべきである。永遠がこの働きにおいてつながっている人々に彼らがどのような型を人々に与えてきたかを語るようになる。もし彼らがパウロの持っていた霊と力を持っているならば、すなわちすべての人をイエス・キリストのうちに完全なものとして提示するために力強く働いている神の御霊を持っているなら、彼らはつねに教訓と模範によって、最も聖なる信仰のうちに彼らに建てさせようと努める。この型を受けた働き人たちは、今度はそれを他の人々に与えるのである。感化力は実に永遠に至るほど遠大なものである。(説教と講和 2巻 45,46)

男女を闇の中にいる人々のために働くために新しい伝道地に送り出すことほど、自己犠牲的な熱心さを男女のうちに呼び覚ますものはほかにない。(教会への証 8巻 147)

8月30日

## 確かな知恵

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず  
に惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられ  
るのである。ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」(ヤコブ 1:5, 6)

わたしたちは自分自身の小ささや神にまったく依存していることを自覚するとき  
に初めて霊的な知識において前進する。しかし、神のみ言葉が何と言っている  
かを研究するために教えられやすい祈りの精神をもって聖書の許へ来るすべての  
者は、神聖な啓発を受ける。一見難しく不明瞭に見えるが、このようにそれらの  
理解を求める人々には神が明瞭に単純にして下さることが多くある。

教育と教養によって知的能力を培ってきた人々が、聖書のある聖句を理解す  
るのに失敗する一方で、教育を受けておらず、理解力が弱く見え、思いの訓練を  
受けていない人々が意味をつかみ、前者が神秘的で重要でないといってやり過  
ごすものの中に力と慰めを見出すことがある。これはなぜであろうか。わたしは、  
後者の部類の人が自分自身の理解力を頼みとしていないからだと説明された。彼  
らは光の源、すなわち聖書に靈感をお与えになったお方の許へ行き、心のへりく  
だりをもって知恵を神に求める。そしてそれを受けるのである。熱心な探求者によ  
ってなお発見されるべき真理の鉱脈がある。キリストは真理を畑に隠された宝  
として表された。それは地表にあるのではない。わたしたちは、そのために掘ら  
なければならない。しかし、それを探すのに成功するかは、わたしたちの知力よ  
りも、むしろ心のへりくだりと神の力をつかむ信仰にかかっている。(教会への証  
5巻704)

非常に偉大かつ厳粛な真理を委ねられてきた人々が、それに見合った信仰を  
表せばよいのだが!彼らは主のみ手に自分たちの働きを委ね、ひざをかがめて、  
知恵と導きを嘆願し、その後すべての重荷をまた取り戻して、自分自身の力で  
計画を立てて実行し、重荷が重すぎるといってうめく代わりに、それを主にお任  
せしなさい。絶えざる活動の生活の中で、彼らはこのように自分たちの魂に休息  
を見いだすのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1883年9月27日)

8月31日

## 神の御目に傷がない

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全きよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のとき(まで)、責められるところのない者にして下さるように。」(テサロニケ第一 5:23)

悔悟とへりくだった信頼をもって、イエスを、すなわちわたしたちの罪が刺し通し、わたしたちの悲しみが重荷を負わせたお方を瞑想する一方で、わたしたちはこのお方の足跡を歩むことを学ぶことができる。このお方を眺めることによって、わたしたちはこのお方の神聖なみ姿へと変えられていく。そしてこの働きがわたしたちのうちになされるとき、わたしたちは義を自分自身のものとして主張せず、自分たちの無力な魂がこのお方の功績にすがり一方で、イエス・キリストを高めるのである。

わたしたちの救い主はいつでも自己義をお責めになる。このお方はご自分の弟子に、最高の宗教の種類とは、静かな慎み深い態度でそれ自体を表すものだとお教えになった。このお方は自分たちの愛の行為を静かに行うようにと警告なされた。みせびらかすためでなく、人からの讚美や誉れを受けることがないように、かえって神の栄光のために、自分たちの将来の報いを期待して行うのである。もし彼らが人によって良い行いを賞賛されたなら、天におられる彼らの御父から彼らに与えられる報いはない。(ビュー・アソド・ハルド 1881年1月18日)

何かの義務について聖書の証をはっきりと理解しない時があれば、わたしたちは偉大な教師の許へ行くことを命じられている。わたしたちに知恵が不足しているとき、神に尋ねることがわたしたちの特権であり、義務である。もしわたしたちが謙遜と信仰のうちに行くならば、むなしく送り返されることはない。

しかし、人が義務の要求をはっきりと認めるとき、それが十字架を伴うからといって服従を免除されるよう祈るためにあえて神の許へ行くような僭越をゆるしてはならない。むしろ、へりくだった服従の精神で、真理を受け入れ実践するために、神聖な力と知恵を求めるために行かせなさい。(ビュー・アソド・ハルド 1883年9月25日)

わたしたちの安全は、キリストを眺めることにある。自己が礼拝の対象となっているとき、すなわち、自己称揚でいっぱいになっているとき、人は自分自身の偶像にひぎをかかめ、キリストを見失っているとき、彼らは恐るべき危険の中にいる。キリストは世の光であられる。あなたの顔をこのお方からそむけるとき、あなたは闇の中を歩む。あなたの目をこのお方の完全に留めなさい。そうすれば、あなたは天の光のうちを歩む。(ビュー・アソド・ハルド 1902年3月26日)

まいと、固く決心しました。

そうするのに一番いいのは、できるだけ多くのアダムの子らが、神さまに従わないようにみちびき、神さまが嫌な思いをなさるようなことばかりをさせるのが良いだろうと、サタンは考えました。そこで、彼は多くの方法で彼らを誘惑(ゆうわく)し、神さまの近くで生活していなかったすべての人は、彼のあざむきにたおれてしまいました。

アダムとエバは、自分自身の悲しい経験から、罪の犠牲の大きさを知っていたので、最善をつくして、道からさまい出た彼らの息子やむすめたちに、彼らの危険について警告(けいこく)しようと思いました。そして彼らに「いのちに至る」良い道へ従うよう説得しようと思いました。毎年、毎世紀、彼らは悪の潮流(ちょうりゅう)に立ち向かおうとしました。しかし、それは負けてばかりの戦いでした。悪人は、自分の悪事においてますます大胆になりました。彼らはますますあからさまにアダムの勧告をばかにして、彼は若者を理解するにはあまりにも古くさいとあざわらいました。そしてアダムが彼らに良い規則を守らせようとするたびに、不平をいいました。

アダムは、彼のかつては美しく平和であった世界に、非常に罪ぶかい多くの人々の住むことになるのを見ました。彼は死ぬ直前に、神と共に歩んだエノクが、「不平をならべ、不満を鳴らす者、自分の欲のままに生活」する人々の「不信心なしわざ」を譴責するのを聞きました。

それは創造からおよそ 900 年たったときでした。500 年後には、事態(じたい)はもっと悪くなっていました。この頃までには、どこもかしこもけんかや戦いばかりでした。どの人の命も安全ではありませんでした。聖書は、「暴虐(ぼうぎやく)が地に満ちた」とのべています。

## キャロブマフィン

### ■材料

①

お湯 半カップ  
砂糖 大さじ1  
イースト 大さじ1

②

砂糖 1/4カップ  
お湯 1/4カップ  
オリーブ油 1/4カップ

③

強力粉 1カップ  
全粒粉 1カップ  
塩 小さじ半分  
キャロブの粉 大さじ1  
レーズン クルミ

### ■作り方

1. ドライイーストの場合は、かきまぜて3～4分あわがたつまで待ちます。
2. ①と②を別々のボールで混ぜ、あとで二つを混ぜ合わせます。
3. ①と②をミックスした所に③を入れる。切るように混ぜます。
4. 天板に具を丸くまとめて並べます。半分より少し上にあがるまで発酵させてから、オープンに入れます。
5. オープンの火を入れておき、180度で20分ぐらい焼きます。(15分ぐらいで見えます)
6. くしに何もつかなくなったら、できあがりです。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

- 福音の宝
- 聖所真理

お申込先 : [sdarm.shomaru@gmail.com](mailto:sdarm.shomaru@gmail.com)



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

## パート3 第1話

### 悲しく悪い日々(1)

エノクは神と共に歩んでいましたが、アダムのほとんどの子ら、また孫たちは、そうしませんでした。彼らは自分で歩み、神様についてはすっかり忘れてしまいました。彼らは自分のことしか考えず、欲が深くて、けんかばかりして、残酷(ざんこく)になっていきました。自分たちの間で戦っては、カインがアベルを殺したように、お互いに殺しあいました。

創造からほんのわずかな期間に、またエデンの平和と調和からほんのわずかに外れてから、このようなことが起こるとは、理解しがたいことです。それでも、今日でさえ、男の子や女の子が教会から出てすぐにいらしたり、手に負えなくなったりすることはめずらしいことではありません。ある人は、楽しいピクニックが終わったとたんに、小さなやっかい者になってしまうこともあります。ある人は、永久に覚えているべき親切や愛をすぐに忘れてしまうのです。

同じように、世界の始まりの当初、人々がますます神さまから遠くに流されていたとき、彼らはますます罪の中へと流れ込んでいきました。

サタンは、へびというかたちで、アダムとエバを園であざむき、できごとの変わり目に大喜びしました。彼は、しあわせで美しい世界のための神



様の計画をだいなしにしようとかわだててきましたが、今、思ったよりももっと成功しようとしているのです。女のすえが自分の頭をくたく、という神さまのみ約束を聞いて、彼はそのようなことを決しておこさせ

(67 ページに続く)